名古屋市立大学

# 蝶ヶ岳ボランティア診療所

# 2024年度報告書

# 診療班の未来像　12

蝶ヶ岳ボランティア診療班
代表　酒々井眞澄（すずいますみ）

寄稿の機会を与えていただいた診療班関係者に感謝いたします。本活動は学内外の多くの方々のサポートにより成り立っています。

2024 年度は個人 70 名（匿名希望 2 名含）と自治体等 6 団体から金銭的なサポートをいただきました。2 月 7 日の幹事会（対面）では2025年度の予算案が承認されました。私たちは1年間準備を進め、2024 年 7 月 13 日から 8 月 20 日まで 5 週間にわたり、参加者 59 名（学生 37 名、医療スタッフ 22 名）、期間中にのべ 33 名の患者診療（急性高山病 36%, 外傷 21%, 筋肉痛・関節痛 7%, 虫刺症 3%, その他 33%）に取り組みました。全日程に学生・医療スタッフを配置し、医師不在期間には WEB による医療相談を受け付ける体制としました。実質的な活動再開から 2 年間で 60 名の所属学生が登山（2,677m）と診療補助を経験することができたことは今後の活動継続につながる成果です。関係者の皆様のご協力には感謝申し上げます。

安全な活動は私たちの最優先事項です。2024 年も台風 5 号および 6 号の接近に伴い関係班員に登山の中止を指示しました。台風発生後の注意深い動向観察、班員の把握（氏名、連絡先、現在地、人数）および 3 役（教員）と学生との密接な連絡体制が極めて重要です。台風発生時の対応マニュアル（p14）を適宜ごらんください。くわえて、大雨の影響により三股ルート林道が一部崩落したとの情報（7/2）があり、現地視察と復旧工事完了確認（7/7）、上高地左ルート（明神～上高地バスセンター間）一部崩落に伴い通行可能ルート確認（7/13～14）（p17）。さらに、本学より南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）に関する連絡（8/9）が教員宛にあり、これを受けて関係班員へ情報共有し地震情報を注視するよう注意喚起しています。安全な活動に真摯に取り組んでくれる人々の姿を次世代に引き継ぐことが肝要です。

コロナ禍以降は収入が減少しているため、活動費の収支バランスを慎重に考慮した運営が引き続き求められます。詳しくは当該報告書の会計収支決算報告書（p29）をご参照ください。再開された診療活動とその準備期間に見えてきた課題を検討し、適切に対応していく必要があります。2020 年以降は中止していた反省会（9/8）を行い、計 8 部門の学生と教員・医療スタッフが課題の抽出と対策案について議論しました（p37 参照）。私たちは運営会議（原則火曜日昼 Hybrid 方式）、勉強会、登山医学会・関係各所からの情報収集、練習登山、猪熊隆之氏（ヤマテン代表取締役、中央大学山岳部監督）の「山岳気象」聴講などにより準備し、知識を深め、診療活動に活かします。

広報活動として、私たちは 5 年ぶりに名古屋経済記者クラブ・名古屋市政記者クラブ同時発表プレスリリース（5/2）にて活動再開を広くアナウンスし、壮行会（6/2）も行っています（p63 参照）。班員の安全を最優先することを念頭に置きながら、今夏の活動をみすえて努力する決意です。皆様におかれては今後ともご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

# 蝶ヶ岳ボランティア診療班　診療所長としてのご挨拶

蝶ヶ岳ボランティア診療班
診療所長　服部友紀（はっとりとものり）

蝶ヶ岳ボランティア診療班に関わる皆様、いつもご協力・ご声援ありがとうございます。2023 年度から、薊隆文先生の後任として診療所長を拝命いたしました名古屋市立大学病院救急科の服部友紀です。

COVID パンデミックのため思うような活動が数年できていませんでしたが、今年度はパンデミック前と同じ日程で診療所を開所しました。台風の影響による早期下山、登山中止などの「想定内の数日間のスタッフ不在」はあったものの、無事に診療活動を終了することができました。ひとえにこの活動に協力、支援、寄付、応援してくださっている方々や OB・OG の皆様のおかげだと感じています。昨年から本格的に 3 役として参加していますが、しばらく活動ができていないが故の引き継ぎ不足による不備や改善すべき点などについて話し合い、診療所開所を迎えました。途中、熊が発見され熊対策用の鈴を義務付けたり、ダニ除去のための器具を揃えたり、開所期間は慌ただしく過ぎました。山頂での活動経験のない学生も多く不安もあったと思いますが、学生たちも頑張ってくれました。

私自身は、今年度は薬剤師の早川先生やリハビリの桜井先生と一緒に参加し、久しぶりに再開された学生主催の雲上セミナーを見守ながら楽しい時間を過ごしました。30 年続けてきた毎夏の登山ですが、一緒に登ってきた仲間が体力的に無理できなくなっており、どうしようかと思っていた所でしたが、蝶ヶ岳診療班として参加するという新たな道ができました。

来年度以降も「班員の安全を優先し転ばぬ 2 歩先の安全策で臨む」をモットーに、安全・円滑な活動となるよう尽力します。引き続きのご支援とご協力をお願いします。

# 蝶ヶ岳診療班　2024 年

蝶ヶ岳ボランティア診療班
運営委員長　坪井謙（つぼいけん）（成田記念病院外科）

皆様のおかげで、2024 年夏は通常に近い形で運営できました。ありがとうございます。患者数はコロナ前の 3 分の 1 程度に減少しました。山小屋宿泊者の減少が 1 番の原因でしょうが、新型コロナ流行を経て、登山客が体調不良で無理を押して登ったり、ツアーなど集団で登ったりしなくなったこともあると思います。また、テント泊できるほどの体力を持った登山客が増えたことが影響しているかもしれません。今までの経験から 4、5 年に一度は重度な傷病者は出現していますので、患者数が減ったからと言っても当活動の必要性はあります。

さて、2024 年 4 月から医師にも働き方改革が本格導入されました。いままでボランティアのように担ってきた医療も、可能なかぎり業務を分担し適切な報酬を期待されるようになりました。本活動では報酬はなく、むしろ今年は参加費をお支払いいただくことになるなど、時代と逆行するところではあります。それでも皆様のご理解で運営できることを大変ありがたく思います。設立当初から診療班運営が軌道に乗ってからも、名古屋市立大学教員を中心とした運営委員の負担が多く、日々の業務を圧迫しかねないことが危惧されました。個々の負担を減らし、引き継ぐことが可能な活動を目指し、2013 年に診療以外の業務の大半を学生に移管しました。これは働き方改革の先取りであったかもしれません。しかし、各部門の縦割り化がすすみ、全体としての統括や、各々の意識や連携、責任感が薄くなってきていることも問題点として挙げられます。これも働き方改革の行く末なのかもしれません。

また、コロナ禍を機に WEB 会議を導入しました。学生間の連絡には LINE や Discord を使用するようになりました。ツールは変わっていきますが、その使用方法や伝達方法、意思疎通というのは一人一人とのやりとりです。便利になった反面、便利さに甘えて対応がお座なりになってきているようにも見受けられます。ネット会議の利点もありますが、なるべくは対面での会議を心がけるようにしています。

今年度の寄付金の集まり具合を鑑み、来年度は例年通り参加費は頂かないようになる見込みです。ご協力いただいたみなさまには、大変感謝しております。

常に新しいことを取り入れながらも、山岳地帯での社会貢献、安全、研究、教育のマインドを忘れずに続けていきたいと思います。これからもご協力のほどよろしくお願いします。

# 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所
# 2024年度報告書
## 目次


蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に関する合意書 …… 5
蝶ヶ岳ボランティア診療班規約 …… 6
名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班に参加ご希望の皆様（新規参加） …… 8
危機管理体制について …… 11
台風発生時の対応マニュアル …… 14
三股登山口に至る林道の現地視察（07.07.2024実施） …… 17
三股登山口→診療所→上高地バスセンターのルート視察（07.13～14.2024実施） …… 19
上高地ルートを利用した活動報告 …… 20
参加者および同伴者の宿泊経費について（2024年） …… 23
運営組織 …… 24
参加・協力学生 …… 25
診療班活動概要・運営上の主な変更点・診療班活動記録 …… 26
通信障害の改善に向けたテザリング用スマートフォンの試験的導入 …… 28
会計収支決算報告 …… 29
スタッフ派遣日程表・学生登山日程表 …… 30
蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ(2024年バージョン) …… 32
2024年の診療所開所に向けた各部門の準備、活動後の反省と対策 …… 37
診療記録 …… 41
使用薬剤集計 …… 42
処方および薬剤等の準備(調剤)時の注意事項 …… 45
酸素ボンベについて …… 47
症例報告 …… 50
雲上セミナー記録 …… 51
予防的介入活動報告 …… 52
参加者感想文 …… 54
学生感想文 …… 57
患者さんからのお言葉 …… 62
メディア取材及び資料集 …… 63
診療活動の取材に関する同意書 …… 65
診療班での急なメディア取材申し込みへの対応フローチャート …… 66
短時間での一時閉所・完全閉所チェックリスト …… 67
診療班活動期間中のクマの目撃情報とその対策について …… 70
いわゆるコロナ禍を乗り越えて診療班活動を継続するための方策 …… 72
コロナ禍からのヒュッテの変化、今後求められる蝶ヶ岳診療所 …… 73
寄付者御芳名 …… 75

# 名古屋市立大学
# 蝶ヶ岳ボランティア診療所
# 設立に関する合意書

名古屋市立大学蝶ヶ岳診療班は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に際して蝶ヶ岳ヒュッテ設置者と以下の項目に関する合意を得たことを確認し，双方の理解と協力の下に診療所を円滑に運営し，蝶ヶ岳山域の登山者の安全確保に寄与することに努める．

第 1 条　設置場所は長野県南安曇郡堀金村，蝶ヶ岳ヒュッテ（以下ヒュッテと略）内とする．
第 2 条　設置主体は名古屋市立大学の学生，およびその教職員を中心とする非営利の任意団体（名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班，以下診療班と略）である．ヒュッテはその運営を援助する．
第 3 条　診療所名称は名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所とする．診療所長は運営委員会で決定し，学内に公示する．
第 4 条　開設期間は 7 月 20 日頃～8 月 20 日頃までの約 1 ヵ月間を原則とする．具体的な開設期間は各年度開設前に診療班がヒュッテに通知し合意をえる．
第 5 条　ヒュッテは診療所の運営に対して以下の支援を行なう．(1)各年度に必要な診療機器，薬品の荷上げはヒュッテが責任を持って行う．その量，回数は診療班とヒュッテとの事前協議によって定める．(2)診療所の運営に必要な水，電気，ガス等はヒュッテ側が無料で供給する．(3)診療班員のヒュッテ滞在のための居住区域と寝具等をヒュッテは用意し，その滞在費（3 食付き宿泊費）は 1 人 1 泊 1000 円とする．(4)ヒュッテは，診療活動を円滑に行えるように，国立公園管理区域内の道路および駐車場が利用できるよう配慮，準備する．
第 6 条　診療所活動は名古屋市立大学医学部の教育・研究と関連したものであり，診療所班員は蝶ヶ岳山域において，山岳遭難救助活動に参加する義務を負わない．
第 7 条　診療班が救急搬送の必要を認めた場合はヒュッテが搬送および，搬送支援の連絡任務を負う．搬送および，搬送に関わる費用負担には診療所は一切関知しない．
第 8 条　診療班員は診療所設置場所が国立公園内であることを認識し，環境保全に努め医療廃棄物の処理はヒュッテの指示に従う．
第 9 条　診療班は会計を決定し，診療班の収入と支出の管理を行う．
第 10 条　診療班員はヒュッテの運営方針を尊重し，診療所区域の清掃に責任を持つ．
第 11 条　診療行為に起因する争議にはヒュッテ側は一切責任を負わない．
第 12 条　診療班の明らかな過失によるヒュッテの器物の損壊があるときは，診療班はヒュッテに対して弁償の責任を負う．
第 13 条　診療班は診療所の運営が困難となった場合には，その旨をヒュッテ側に通知し，運営を中止できる．その場合は次期診療所開設期日の 1 年以上前に行わなくてはならない．
第 14 条　ヒュッテが診療所の開設の必要を認めない場合，または診療班以外の団体に運営を委嘱する場合，その旨を診療班に通知し，診療所を閉鎖できる．その場合は次期診療所開設日の 1 年以上前に行わなくてはならない．
第 15 条　合意書の事項に変更の必要を認めた場合は診療班代表，診療所長またはヒュッテ代表が発議し，協議を行って内容の変更を加えることができる．
附則　この合意書は 1998 年 4 月 1 日から発効する．

1998 年 3 月 31 日

蝶ヶ岳ボランティア診療所代表
医学部名誉教授　太田伸生

名古屋市立大学医学部
蝶ヶ岳ボランティア診療班所長
医学部教授　　武内俊彦

蝶ヶ岳ヒュッテ／大滝山荘 代表 故 神谷圭子

# 名古屋市立大学

## 蝶ヶ岳ボランティア診療所規約

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班（以下「診療班」という。）は、1997 年度医学部教授会の承認を受け、1998 年度より北アルプスの中部山岳国立公園蝶ヶ岳にある蝶ヶ岳ヒュッテ内に「名古屋市立大学医学部蝶ヶ岳ボランティア診療所」を設置することを決定した。2000 年度に、学生組織はクラブ活動として組織化されて、全学部の活動となった。学生組織は本活動を支える全学的な組織であることから、これを契機に同診療所を「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所」と名称変更した。診療班は、本規約により、診療班を運営し、また、診療所を運営し、また、その他必要な事項についてもこの規約の方針に従う。

目次

第 1 章　総則（第 1 条—第 3 条）
第 2 章　組織（第 4 条—第 11 条）
第 3 章　管理業務（第 12 条—第 15 条）
第 4 章　雑則（第 16 条・第 17 条）

### 第 1 章　総則

（目的）

第 1 条　診療班は、人命救助や健康管理の重要性を認識し、ボランティア医療活動を通じた社会貢献を目指すことを目的とする。また、高地医学、遠隔地医療及び環境保全の研究・教育の場としての意義も有する。

（事業）

第 2 条　診療班は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（1）登山者の疾病治療、高山病予防活動その他治療・予防活動

（2）蝶ヶ岳近辺の環境保全

（3）前 2 号に掲げる事項に係る研究・教育

（4）その他医療活動、社会貢献、研究・教育に関する事業

（構成）

第 3 条　診療班は、名古屋市立大学の学生、教職員及び卒業生の有志で構成される。（以下、診療班を構成する者を班員という）

2　班員以外の者及び夏山参加者であっても、診療班員による推薦の後、運営委員会での承認を経て班員として登録できる。この登録は、本人の意志により解除することができる。

3　前項に該当する者の入退会は、運営委員会で記録し、これを毎年度確認するものとする。この場合において、その者との連絡が途絶して 2 年が経過した場合、あるいは運営委員会の協議により、診療班は、その者の班員としての登録を解除することができるものとする。

### 第 2 章　組織

（役員）

第 4 条　診療班に、役員として、代表 1 名、診療所長 1 名及び運営委員長 1 名を置く。

2　役員の役割は、それぞれ次に掲げるとおりとする。

（1）代表は、診療班を代表し、診療班の活動を統轄する。

（2）診療所長は、蝶ヶ岳ボランティア診療所を代表し、診療業務を統轄する。

（3）運営委員長は、代表及び診療所長を補佐し、診療班の活動全般を司る。

3　役員は、幹事会において班員の中から選出された候補者のうちから、総会において承認を得た者とする。

4　役員の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

（学生代表）

第 5 条　診療班に、学生から選出される学生代表 1 名を置く。

2　学生代表の役割は、次条以降に定める診療班の運営に係る各種会議の招集・議長等、学生の意見の統括その他必要な事項とする。

（運営組織）

第 6 条　診療班に、総会、幹事会、運営委員会及び会計監査を置く。

（総会）

第 7 条　総会は、診療班の最高議決機関であって、代表がこれを招集する。

2　総会は、班員をもって構成する。

3　総会は、年 1 回開催する。ただし、代表が特に必要があると認めたときは、臨時総会を開くことができる。

4　総会は、班員の過半数の出席により成立する。

5　総会の議長は、原則として年度の学生代表とする。ただし、総会の同意が得られる場合には、学生代表以外の者を議長とすることができる。

6　班員は、委任状を提出し、議場委任することができる。

7　議事は、出席者の過半数で決定する。

8　総会は、予算・事業計画の決定、前年度活動実績及び今年度の展望の報告、規約の改正に係る同意等を行う。

（幹事会・幹事）

第 8 条　幹事会は、総会に次ぐ議決機関であり、診療班の運営方法を決定し、これを班員へ広告する。

2　幹事会は、幹事、学生代表により構成され、運営委員長がこれを招集する。

（1）幹事会は、幹事、学生代表の過半数の出席により成立する。

(2) 議事は、出席者の過半数で決定する。
3 幹事は、5 名程度とし、班員の有志のうちから総会で承認された者とする。
4 幹事会は、役員の候補者を選出する。
5 幹事会の議長は、原則として運営委員長とする。ただし、幹事会の同意が得られる場合には、運営委員長以外の者を議長とすることができる。
6 代表が必要と認めたときは、幹事会に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。
7 幹事の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(運営委員会・運営委員)

第 9 条 運営委員会は、診療班の運営に関し必要な事項を協議するものとする。
2 運営委員は、班員の有志とする。
3 運営委員会は、毎週 1 回を常例として開催し、学生代表がこれを招集する。
4 運営委員会の議長は、原則として学生代表とする。ただし、運営委員会の同意が得られる場合には、学生代表以外の者を議長とすることができる。
5 運営委員会は、活動計画等の診療班に関する事項、班員の入退会の記録等について、提案又はその決定を行う。
6 前項の提案及び決定は、運営委員会の会議のほか、蝶ヶ岳メーリングリスト等によって行うことができる。
7 議長は、議事録を作成させるものとする。この議事録は、蝶ヶ岳メーリングリストにより、公開・報告される。
8 運営委員の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(白蝶会)

第 10 条 別に組織される白蝶会は、診療班への指導・後援を行うものとして、また、第 2 条の事業を行うために、診療班に対してスタッフ派遣などを行うことができる。
2 診療班は、白蝶会の運営等に係る協力を行うものとする。

(会計監査)

第 11 条 会計監査は、診療班の会計業務を監査する。
2 会計監査は、監査の結果に基づき、必要があると認めるときは、代表に意見を提出することができる。

## 第 3 章 管理業務

(会計)

第 12 条 診療班の会計業務は、学生から選出された会計が行う。
2 会計の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。
3 幹事は、会計を補佐する。

(薬剤・衛生材料管理)

第 13 条 診療班の薬剤・衛生材料管理業務は、学生から選出された薬剤係が行う。
2 薬剤係の任期は、総会までの 1 年とする。ただし、再任を妨げない。
3 幹事は、薬剤係を補佐する。

(会計年度)

第 14 条 蝶ヶ岳ボランティア診療班の会計年度は、11 月 1 日に始まり、翌年 10 月 31 日に終わる。

(活動経費)

第 15 条 診療班の活動に要する経費は、寄附金、名古屋市立大学医学会助成金、名古屋市立大学からの支援金その他の収入をもって充てる。

## 第 4 章 雑則

(規約の改正)

第 16 条 この規約は、登録されている診療班員の誰もが異議を申し立てる権利を有する。当該申立てがあった場合には運営委員会又は幹事会で討議し、総会において出席者の 3 分の 2 以上の同意で改正できる。

(雑則)

第 17 条 この規約に定めるもののほか、診療班及びその運営等に関し必要な事項は、総会、幹事会又は運営委員会の議を経て、代表が定める。

附則 この規約は 1998 年 4 月 1 日から発行する。
附則 2004 年 11 月 9 日 一部改正
附則 2005 年 11 月 8 日 一部改正
附則 2014 年 2 月 1 日 一部改正
附則 2019 年 1 月 19 日 一部改正

# 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班に

# 参加ご希望の皆様（新規参加）

蝶ヶ岳ボランティア診療班代表　酒々井眞澄

平素より、名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動へのご理解とご協力、どうもありがとうございます。

新規参加者の皆様には、当診療班の規定にもとづき提出していただく書類があります。別途の送付書類をよくご覧いただき、必要事項を記入のうえ書類の提出をお願いします。

次の書類を提出して下さい。

①診療班参加の確認事項
②資格（免許証）および身分証明書（資格（免許証）および顔写真付き身分証明書の写し）
③スケジュール部門アンケート

①②③の書類の提出をもって参加予定者とさせていただきます。
郵送もしくは E-mail でご提出ください。
担当者宛先：診療班運営委員長　坪井謙
郵送：名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1　名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班
E-mail：chogatake-staff@umin.ac.jp

書類が整っていることを確認後に、新規参加の可否は診療班運営会議にて最終的に決定します。参加確定後、蝶ヶ岳ボランティア診療班ホームページの参加者日程にお名前を提示します。適宜ご確認ください。

登山前に必ず以下の2点を行ってください。

・登山計画書を記入し、参加する班のリーダーに提出する（原則、登山日の 1 週間前までを期限とします、期限当日や直前の場合は参加を認めません）。
・参加する班のリーダーより送られるスタッフマニュアルをよく読む。

登山予定日 1 週間前までに診療所でご一緒する学生から最終確認などの連絡をさせていただきます。（連絡が来ない場合は、お手数ですが下記までご連絡下さい）
ご質問などの際はスケジュール担当（cho.schedule.2677@gmail.com）までご連絡ください。

何卒よろしくお願いします。

# 診療班参加の確認事項

以下の項目についてご確認後、□に✓をご記入ください。
ご記入後に自署をお願いします。

□ 顔写真付き身分証明書の写しを提出します。医療関係者は資格（免許証）の写しを蝶ヶ岳ボランティア診療班に提出します。
□ スケジュール部門アンケートを記入し、提出します。
□ 患者様および診療班員から得た個人情報は、診療班で必要とされる活動以外の目的では使用しません。

上記事項を確認したので診療班代表酒々井眞澄に提出します。

年　　月　　日

署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

# スケジュール部門アンケート

〇氏名（よみがな）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（性別　　、年齢　　）

〇自宅住所

〒　　－

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇メイルアドレス（緊急連絡に使用する場合があります。正確にご記入ください。）

PC＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

携帯＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇電話番号（緊急連絡に使用する場合があります。正確にご記入ください。）

自宅＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿／携帯＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇職歴等

・卒業学校（卒業年次）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・勤務先

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇登山経験

・登山歴

＿＿＿＿＿＿

・どれくらいの高さの山にどの程度の頻度で登られたことがありますか

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〇普段どの程度運動をしていますか

〇蝶ヶ岳診療班を知った経緯はどのようですか（HP、新聞、テレビ、雑誌、友人の紹介など）

推薦者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様

推薦者の連絡先（メイルアドレス、携帯電話番号など）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

# 危機管理体制について

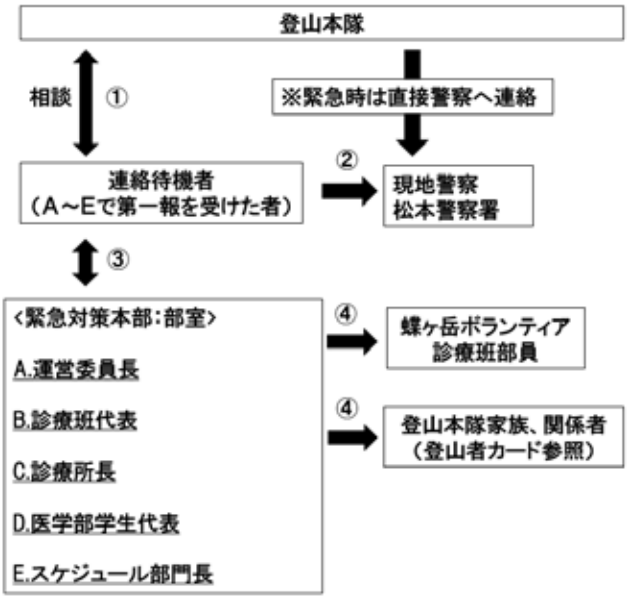
2015.6.23 運営委員会

**＊安全の確保**

班員の安全が全てに優先する。現地のリーダーは班員の安全を第一に考えて判断、行動し、班員の退避により診療活動へ支障が出たとしても、安全を最優先する。活動中は参加する全ての班員は安全確保の規約に従う義務を有する。

**＊連絡義務**

班員は登山開始時・診療所到着時・下山開始時・下山完了時には、全体メーリングリストにて本人があるいは担当学生を介してその旨を報告する。




**1.緊急連絡網**

・緊急事例：何らかの理由（遭難、事故等）で班員の生命に危険が及ぶ場合。

・緊急時、診療所から、連絡待機（※）に電話または Skype を用いて連絡。

（※）診療所からは(A)運営委員長、(B)診療班代表、(C)診療所長、(D)医学部学生代表の順に連絡をとり、第一報を受けたものが連絡待機として情報の集約・管理を行う。

・下界にて第一報を受けた者は、（A）、（B）、（C）、（D）、（E）スケジュール部門長に連絡をとる。

・(B)は緊急対策本部を部室内に設置する。

・他の関係者、保護者等には（D）中心に連絡を適宜取り次ぐ。

・緊急時、部室は診療所と交信する緊急対策本部として利用し、情報の集約・管理は部室（緊急対策本部）に一元化する。

・部室が開いていない時間帯では、部室が開くまでの間、情報の管理は連絡待機が担う。部室が開き次第、部室にて情報を集約・管理する。

・診療所における学生連絡係は連絡待機と定時連絡をして状況の把握、情報管理、報告を行う。（集まった情報の正確性は重要、単なるうわさや情報修飾に注意。診療所との情報のやりとりは、原則連絡待機が担当する）

・(B)は緊急対策本部の役割が終了した時点で緊急対策本部を解散する。

## 2.連絡法

・ヒュッテ電話(ゼロ発信必要)
・ヒュッテ公衆電話(ヒュッテ電話とは回線が違う)
・個人の携帯電話
・Discord・メール
・全体メーリス

## 3.出動の要請

蝶ヶ岳ボランティア診療所設立に関する合意書　第 6 条参照

・診療所班員は山岳遭難救助活動に参加する義務を負わないことを原則とし、山岳遭難救助活動は診療班の本務とするものではないことに留意する。
・2 重遭難の防止が重要である。現場のスタッフとヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)の協議により行う。
診療所近傍＝声の届く範囲では、診療班の主体的判断で病人を診療所へ搬送することがある。
遠隔地＝蝶ヶ岳山頂テント場、瞑想の丘を越えた山岳地帯で救援活動補助を行う場合、ヒュッテ駐在の救助隊員と協議して、その指示に従う。(出動指示は原則断る)
・山頂での野外救援活動の指令リーダーはヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)とする。
・安全に配慮して診療班は診療所で待機することを原則とする。
・安全な医療活動ができると現地での判断ができれば、ヒュッテ駐在救助隊員の指示に従って救援活動を補助する。遭難者から直接診療班スタッフに救援要請が入った時も、ヒュッテ駐在救助隊員との協議・指示で補助することがある。
・ヘリコプター要請(長野県警または長野県広域消防隊)については、医療スタッフが必要と判断した場合、ヒュッテ駐在救助隊員(酒井雄一さん等)等を介して要請する。(ヒュッテは山岳遭難に関した共用の無線を利用できる)
・必要に応じてヘリ搬送を要請し、その後は長野県警山岳遭難対策本部の指示に従う。(処置や搬送法については医療アドバイスに留める)

**＊ヘリ搬送での留意事項**

ヘリ搬送の可否および方法はパイロットの最終判断で行う。
救助には救助する側(救助者)の安全確保を優先し、2 次遭難を避ける。
医療者側からの指示は救助者に重大な対応や制限を強いることがあることを自覚する。
ヘリ要請時は必要に応じて診療班員も情報共有にかかわる。
診療班員は医療アドバイスをとおして救助活動をサポートする立場である。

④医師不在時の対応・医療相談

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班ホームページ、蝶ヶ岳ボランティア診療所の診療体制の項を参照（http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyo_naiki.html）

・医師不在時あるいは初期研修医等の診療でサポートが必要な場合や、受診患者が専門分野でなく困った場合などには、前述の連絡網にてある程度対応することが可能。

・医師不在時にできる医療は限られている。その旨を患者に伝える。

→医師とは相談できる程度である。薬剤師がいれば患者の要請がある場合、医師を通じて処方はできる、など。

・問診・診療などをオンラインで補助する場合、患者の同意が必要である。

⑤悪天候時の対応

＊行動の原則：

診療班員は長野県地方または岐阜県地方に気象警報が発令中の時は、下山・入山などのすべての行動を中止する。台風のコースが発表されて、近日中に長野県に警報発令が予測できる状況では、下山の繰り上げ、または入山の延期を検討して判断する。

＊インターネットと電話連絡網が使える状態：

悪天候時またはそれが予測される場合にリーダー（班員）は運営委員長に連絡・協議し、運営委員長は行動予定を最終決定し責任をもって班員の安全を確保する。班の行動予定を変更すべき場合には、運営委員長はメーリスを介して文書で全診療班員に伝達する。運営委員長がこの職務を遂行できない場合には、運営委員がこの職務を代行する。

＊インターネットと電話連絡網が使えない状態：

現地のリーダーは医師、山小屋のメンバーと協議し、班員の安全を第一に考えた判断をする。リーダー（班員）は連絡が可能になった時点で状況を運営委員長（不在時は運営委員）にすばやく報告する。行動完了予定時刻を過ぎてなお連絡不通の場合は連絡網リストA～Dの者および運営委員は想定される事態に責任を持って対応する。

＊ルート選択：

最も安全な避難ルートは「長塀尾根---徳沢---上高地ルート」である。緊急事態では徳沢まで自動車による搬送を要請することも可能である。ただし台風の直撃や、局地的な地震災害を受けた場合のルート状態は予測が難しい。できる限り目的地と連絡を取って、名古屋まで帰還できることを確認した上で行動を開始する。

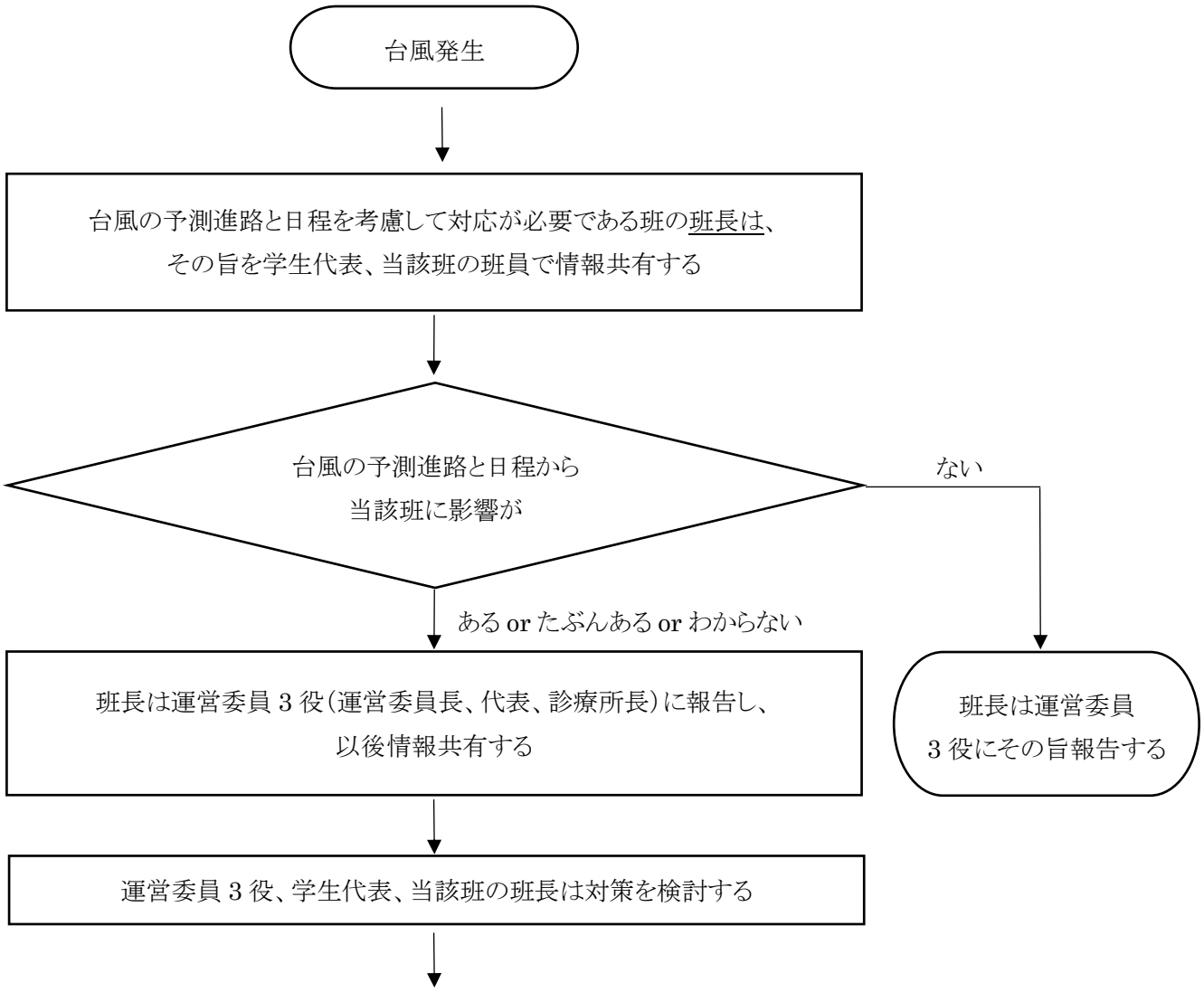
夏期の三股ルートは通常の降雨中でも安全と考えられる。しかし、「力水」以下のルートは沢筋のため、豪雨中・後は沢が増水・崖の崩壊などの危険があるので、高巻き退避ルートを使わざるをえない可能性がある。豪雨時にやむをえず下山する場合は、三股ルートを避けて長塀尾根ルートを使って徳沢へ下山し、日大医学部徳沢診療所へ救援を求めるのが安全と思われる。ヘリコプターが飛べない気象状態でも、徳沢までは車両を使った救援活動が可能である。積雪期（5 月まで）では、三股ルートの頂上付近はトレースがなく安全なルート確認が難しい状態である。5 月以前の積雪期に入山する場合には、積雪期の完全装備（ロングスパッツ、ピッケル、アイゼンなど）を整え訓練した上で長塀尾根ルートを優先的に選択する。

# 台風発生時の対応マニュアル

診療班代表　酒々井眞澄
2024 年度学生代表　藤井祐宇（M3）

【背景】
台風発生時の対応マニュアルは、診療班代表あるいは運営委員長が開所期間中に常時対応することが不可能であるという背景により作成された。このマニュアルは診療班がこれまでに行ってきた対応を分かりやすくまとめたものであり、いつ頃に、誰が、何をするのか、が記載してある。今年の台風発生時も以下のマニュアルに沿って対応が行われた。このマニュアルによって、来年度以降の診療活動が安全に行われるための一助となれば幸いである。

【台風発生時の対応マニュアル】



診療班（正規班・臨時班・学生がポーターとなる医療スタッフ班含む）の登山の延期、中止、下山を早めるなどの対策を決定する（早朝・深夜の電話会議などもあるので関係者は 24 時間連絡可能な状態で待機する）

↓

当該班長は、当該班員全員と、当該班と期間が連続あるいは期間が重なる診療班の関係者全員（医療スタッフ班含む）に決定内容を報告する
当該班長は、その旨現地スタッフ・事務所・中村梢様に報告する

学生代表は全体メーリスにて診療班全体にその旨を周知する

↓

当該班長は、登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応を進める
当該班長は、一時閉所チェックリストあるいは完全閉所チェックリストに従い閉所を準備する

↓

登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応の実施と
診療所の一時あるいは完全閉所

↓

学生代表は、登山の延期、中止、下山を早めるなどの対応の実施と
診療所の一時閉所あるいは完全閉所を全体メーリスにて報告する

↓

台風の進路に注視しながら学生代表と次の班長は、
運営委員 3 役と台風通過後の対応を検討する

↓

次の班長は、決定に従って移動あるいは登山準備を進める
次の班長は、準備状況を適宜運営委員 3 役に報告する

【注意事項】
・班員の安全を最優先して行動する。
・台風を含む自然現象への対応は極めて難しいことがある。このマニュアルは、必ずしもすべてをカバーするものではない。
・台風が発生した場合は、予測進路にかかわらず学生代表および当該班長は、運営委員 3 役にその旨を報告する(どのような場合も報告して情報共有する)。
・運営委員 3 役と連絡が取れない場合は、他の運営委員に連絡する。
・台風の進路を注視し、対応する必要がある場合は、運営委員 3 役・班長・学生代表で情報共有する。
・情報共有を密にする。
・上記関係者は早朝や夜間でも(24 時間)連絡可能な状態で待機する。
・運用の状況に合わせて本マニュアルを適宜修正し、よりよいものにしていく。

【2024 年活動期間中の対応】
今年の開所期間中に台風 5 号および 6 号の接近により、7 班(8/12)、8 班(8/12~8/14)、9 班(8/16)、整理班(8/16~8/17)の活動が中止となり、一時閉所となる期間があった。今年の台風発生時の対応は以下の通りであった。
8/7(水) 酒々井先生より先生方と班長へ熱帯低気圧(後台風 5 号)の発生について情報共有
8/11(日) 酒々井先生より先生方と班長へ熱帯低気圧の発生について情報共有
8/11(日) 酒々井先生より 7 班、8 班、9 班の今後の方針について検討すると各部門長と学生代表に指示
8/11(日) 7 班の早期下山が三役の電話会議にて決定
8/11(日) 8 班の活動中止が三役の電話会議にて決定
8/11(日) 7 班班長鈴木(M4)より全体メーリスで一時閉所の情報共有
8/11(日) 8 班班長石川(M5)より全体メーリスで活動中止の情報共有
8/12(月) 台風 6 号の接近に伴い三股の電話会議、酒々井先生より 9 班、整理班の今後の方針について検討する旨を班長と学生代表に指示
8/14(水) 9 班の早期下山が三役の電話会議にて決定
8/14(水) 整理班の活動日程変更が三役の電話会議にて決定
8/14(水) 診療所との Zoom 会議(8/14、午後 8 時)にて、9 班の下山と整理班の移動および学生の登山タイミングについて情報共有
8/15(木) 9 班班長木村(M6)より全体メーリスで一時閉所の連絡

# 三股登山口に至る林道の現地視察（07.07.2024 実施）

診療班代表　酒々井眞澄

【経緯】

7/2（火）榊原先生より三股登山口への林道が一部崩落した旨の情報提供があった。

7/2（火）安曇野市耕地林務課担当者へ照会し林道一部崩落の確認。（酒々井）

7/2（火）～複数チェンネルでの情報収集と確認。（班員）

7/2（火）坪井運営委員長より全体メイルにて対応検討中および関係各位に情報注視の指示発出。

7/7（日）三股登山口への林道（駐車場～登山口）を視察した。（酒々井）

7/8（月）安曇野市観光課担当者より復旧工事が全て完了との情報提供があった。（藤井）

【位置情報】

三股登山口（1,350m）まで 50m くらいの位置

【現地画像情報】

7/7 現在の林道の様子（崩落か所復旧工事後）

復旧工事現場から三股登山口までの距離感（山側からの沢の水を通す水路が新たに設置された，矢印）

◆林道が崩落した場所は埋め戻され川側への補強、復旧工事完了を確認した（7/7）。
◆歩行者・車両通行可。

【今後について】
◆診療所の開所までに新たな崩落等がなければ駐車場～三股登山口間の林道は利用可能。
◆例年とおり大雨などの情報に引き続き注視する必要がある。
◆13 日（土）と 14 日（日）に酒々井が三股登山口からの登りルート（診療所まで）と下りルート長塀～徳沢～上高地バスセンター（左ルートを予定）を視察する。
◆収集した情報の分析に基づき、学生班の利用するルート（三股 or 上高地）を決定する。
◆7/13 坪井運営委員長送信の全体メイル「蝶ヶ岳診療所 2024 年度開始のご案内」の添付ファイル「三股登山口への林道の状況に関する情報提供（画像付計 4 ページ）～診療班代表酒々井眞澄」を参照のこと。 以上

# 三股登山口→診療所→上高地バスセンターのルート視察（07.13～14.2024 実施）

診療班代表　酒々井眞澄

【経緯】

2024 年 7 月初旬の長野県中部における豪雨に伴って周辺機地域の登山道等に崩落等の被害が発生した。2018 年に駐車場から三股登山口へのアクセス道路が崩落した際の経験を活かし、活動の可否決定の為に今回もルート情報収集と状況分析および情報共有と方針決定を行った。

【視察ルート】

三股登山口からの診療所までの登りと下り長塀～徳沢～上高地バスセンター（徳沢より明神左ルートおよび明神より河童橋右ルート）を視察した。

【現地画像情報】

◆三股登山口からの登りルート（診療所まで）と下りルート長塀～徳沢は通行可（7/13）。

◆徳沢～明神（左ルート）～上高地バスセンター（右ルート）は通行可（7/13）。

◆明神～河童橋（左ルート）は 7/14 時点で通行止め。（写真参照）

◆梓川の上流から下流に向かって左側の道が左ルート、右側の道が右ルートである。明神から河童橋までの右ルートは車道と歩道がある。

◆当初の計画とおり学生班は原則三股ルートを利用し、班長の判断で上高地ルートも可とする。

◆例年とおり、各班は天候・大雨・林道・登山道などの情報に引き続き注視すること。

◆台風や体調不良については台風発生時の対応マニュアルおよび学生向けガイドラインに原則従うこと。

7/20 情報技術部門発信の全体メイル「7 月 15 日の運営委員会報告～ルート視察状況報告～酒々井先生」を参照のこと。　以上

# 上高地ルートを利用した活動報告

蝶ヶ岳ボランティア診療班
3 班班長　高橋航太朗（M4）

【上高地ルート利用の経緯】

2018 年、三股登山口へのアクセス道路の崩落に伴い全学生は上高地ルートを利用した（2018 年度報告書参照）。2019 年には三股登山口へのアクセス道路が復旧したが、今後も三股ルートが使用不能になる事態を想定し、三股および上高地ルートの両方に対応できる経験を積むべきだという理由で臨時班も含めた全 14 班のうち 3 つの班が上高地ルートを利用した（2019 年度報告書参照）。その後 3 年間は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う活動制限により上高地ルートを利用する班はなかった。実質的な活動を再開した 2024 年は上記の経緯を踏まえ、班長の判断と 3 役の同意の上、第 3 班（7/31~8/2）のみ上高地ルートを利用することとなった。同時に、上高地徳沢に所在する徳沢ロッヂおよび日本大学医学部徳沢診療所への挨拶も行った。

【行程】

〇2024 年 7 月 30 日（1 日目）

9:45　桜山キャンパス出発
13:20　平湯温泉近くで昼食
14:20　あかんだな駐車場発の上高地行きバスへ乗車
14:50　上高地バスセンター到着
15:20　徳沢ロッヂに向け出発
17:45　徳沢ロッヂ到着
20:00　日本大学医学部徳沢診療所を訪問

※雨天の影響もあり、上高地バスセンターから徳沢までの移動時間は 2.5 時間（右ルート）であった。（通常は 2 時間程度）

〇7 月 31 日（2 日目）

6:30　朝食（徳沢ロッヂ）
7:30　徳沢登山口出発
11:40　長塀山山頂（2,565m）到着
13:00　蝶ヶ岳ヒュッテ（山頂 2,677m）到着

○8 月 1 日（3 日目）

診療活動

○8 月 2 日（4 日目）

8:30　蝶ヶ岳ヒュッテを出発

9:00　長塀山山頂通過

12:00　徳沢到着、休憩

13:00　徳沢出発

15:00　上高地バスセンター到着

16:30　岐阜県平湯（ひらゆの森温泉）到着

写真 1

下山の道中、徳沢まで 30 分ほどの登山道で傷病者（下山中に左上腕に擦り傷を負った男性）を発見した。班長が症状病態を聴取し対応を検討。ご本人の同意を得て、学生 2 名が先に下りて日本大学医学部徳沢診療所にその旨を報告し、残りの 2 名で介助をしながら傷病者と共に診療所まで下山した。日本大学医学部徳沢診療所のご協力により対応することができた。

下山日は晴れ、観光客で賑わった上高地を楽しむことができた。（写真1：上高地の河童橋付近で梓川の清流に脚をつけ疲れを取っている）

【徳沢ロッヂ宿泊】

1日目は徳沢ロッヂで宿泊をさせていただいた。宿泊予約の時期が遅くなってしまったが、古畑支配人様のご厚意により快く宿泊を受け入れてくださいました。

古畑支配人並びにスタッフの方々のご厚意に深く感謝いたします。（写真2：学生3班の班員と徳沢ロッヂの古畑支配人との記念写真）

N4 白石 M4 髙橋 古畑支配人 M2 大西 M2 奥瀬

写真 2

【日本大学医学部徳沢診療所訪問】

7 月 30 日午後 7 時、日本大学医学部徳沢診療所へご挨拶に伺った。医学部 3 年次の学生が 2 名診療所に待機されており、診療所の活動の様子などをお互いに紹介し情報交換することができた。

8 月 2 日午前 11 時頃、蝶ヶ岳山頂から徳沢までの下山途中に傷病者 1 名と随伴し日本大学医学部徳沢診療所に受診していただいた。医師不在期間であったが、結果的に学生 2 名に迅速に対応していただくことができた。連携施設と協力して傷病者の対応を行うことができ貴重な経験となった。

【上高地ルート選択の意義】

登山においてエスケープルートの確保は非常に重要です。実際、今年度も三股ルートが一時的に利用できなくなる事態が発生しました。2018 年には診療班全体が上高地ルートを使用したように、このルートは最も安全であるため、今後も診療班が使用する可能性が高いと考えられます。しかし、コロナの影響で活動が制限されていたことにより上高地ルートを利用する診療班員がいないという状況が続いていました。この現状に対し私は危機感を抱き、再度上高地ルートを取り入れました。

実際に上高地ルートを登ってみると、登山者の数の違いに驚かされました。三股ルートでは蝶ヶ岳を目指す登山者しか見かけませんが、上高地ルートではバスターミナルから徳沢までの道が観光客や北アルプスを目指す他の登山者で賑わっており、活気に満ち溢れていました。多くの登山者と交流を深める中で、安全意識の向上にも貢献できたと実感しています。また、この機会を通じて、私たちの活動を多くの方々に知っていただくことができました。

今後は、三股ルートに頼り切るのではなく、上高地ルートも継続的に使用していくことが重要だと強く感じています。

酒々井先生（診療班代表）からの追加コメント： 2018 年に発生した三股駐車場へのアクセス道路の崩落により、当該年は全ての学生班は上高地ルートを利用することとしました（2018 年度報告書参照）。上高地の徳沢ロッヂ様（古畑満支配人）と徳澤園様（上条靖大社長）には宿泊やテント場利用等について多大なるサポートをいただいています。2024 年についても豪雨に伴う梓川周辺の道路状況に関する情報提供や宿泊部屋の提供等において大変お世話になりました。加えて本年、ほりでーゆ～四季の里様には予約なしにもかかわらず大雨時に宿泊部屋を提供していただきました。診療班を代表して、関係者各位にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。
（尚、ほりでーゆ様には毎年、須砂渡キャンプ場のテント場サイトも提供していただいています）

# 参加者および同伴者の宿泊経費について（2024 年度）

蝶ヶ岳ボランティア診療班　運営委員長　　坪井謙

コロナ禍により山小屋への宿泊者数制限や、資材等運搬用のガソリン・資材・食材の価格高騰をうけ、2022 年の活動再開時から宿泊経費についてはその年度ごとに設定することとしました。宿泊場所は客室、冬季小屋、従業員用別棟などその年によって異なります。2024 年は下記のようにしました。

1）学生

ヒュッテに宿泊経費として一人一泊当たり 2,000 円、 1 食 1,000 円を、蝶ヶ岳ボランティア診療班から一括して活動終了後に支払う。

2）医療スタッフ等（教員含む）

ヒュッテに宿泊経費として一人一泊当たり 2,000 円を、蝶ヶ岳ボランティア診療班から一括して活動終了後に支払う。食費については 1 食 1,000 円を医療スタッフがヒュッテに支払う。

3） 医療スタッフ等の同伴者

同伴者（ご家族等）と共に参加する場合は、一般登山客と同様に WEB 予約をしていただきます。予約が取れない場合は運営委員長と相談の上対応を検討します。

4） テントで学生・教員・スタッフ・同伴者が宿泊する場合

A：事前に登山計画書を担当学生に提出し入山を診療班が把握している場合には、テント代は不要です。食事をヒュッテ内で希望される場合は事前にお知らせいただき、 1 食 1,000 円の計算で、蝶ヶ岳ヒュッテに現地で現金で支払います。

B：入山計画書の事前提出が無く、現地班長が事情を把握していない場合は、個人責任で一般登山客として一般宿泊料金を現地受付でお支払いいただき宿泊して下さい。

いずれの場合も登山計画書を事前に担当学生に提出ください。長野県の条例で登山計画書の提出は義務付けられています。水に関しては無料になりますが、診療班の腕章をつけて提供を受けてください。（コロナ禍により診療班の収入が激減したための対応となりました）

2024 年 6 月

# 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班運営組織

運営組織(敬称略)

| | |
|---|---|
| 診療班代表 | 酒々井眞澄<br>医師・名市大大学院医学研究科神経毒性学教授 |
| 診療所長 | 服部友紀<br>医師・名市大大学院医学研究科先進急性期医療学教授 |
| 運営委員長 | 坪井謙<br>医師・成田記念病院外科部長 |
| 運営委員 | 松嶋麻子<br>医師・名市大医学部附属東部医療センター救急救命センター長・救急科教授 |
| 運営委員 | 早川智章<br>薬剤師・名市大附属病院薬剤部 |
| 特別運営委員 | 三浦裕<br>医師・至学館大学教授(国際認定山岳医) |

幹事(敬称略)

酒々井眞澄　服部友紀　坪井謙　松嶋麻子　早川智章

歴代の診療班代表・診療所長・運営委員長の方々(敬称略)

(現職または前・元職表示)

太田伸生(元診療班代表、1998～2005)
名市大大学院医学研究科名誉教授

故・武内俊彦(元診療所長、1998～2005)
名市大大学院医学研究科名誉教授

徳留信寛(元運営委員長、1998)
名市大大学院医学研究科公衆衛生学元教授

三浦裕(前運営委員長、1999～2012)
医師・至学館大学教授

勝屋弘忠(元診療所長、2001～2006)
名市大大学院医学研究科名誉教授

津田洋幸(元診療班代表、2006～2008)
名市大津田特任教授研究室教授

森田明理(元診療所長、2007～2012)
名市大大学院医学研究科加齢・環境皮膚科学教授

森山昭彦(前診療班代表、2009～2012)
名市大大学院理学研究科名誉教授

薊隆文(前診療所長 2013～2022)
医師・名市大大学院看護学研究科名誉教授

お世話になった方々(敬称略　五十音順)

浅井清文(名市大学長・名市大大学院医学研究科名誉教授)　青木康博(名市大大学院医学研究科名誉教授、法医学分野前教授)　河辺眞由美　黒野智恵子　土肥名月　西村恭子　野路久仁子　矢﨑蓉子

# 参加・協力 学生

M6 浅井 昂大
安東 知里
井手上 駿
伊藤 理子
岩城 俊亮
尾崎 斗南
笠井 翔太
梶川 奨真
加藤 圭
蟹江 麻由
神田 唯衣
木村 颯花
栗原 瑞季
小出 瑛景
佐藤 奈々
嶋田 匡孝
髙橋 洸太
武市 和也
中濱 花菜
西山 真由
M5 石川 総由
小串 聡一朗
迫 千惠音
田淵 紗矢香
中川 楓美恵
中農 七海
久松 脩典
M4 鈴木 智央里
髙橋 航太朗
原田 悠希
水野 太陽
宮永 大二郎
若杉 大路
N4 伊藤 真菜華
岩田 莉奈
志田 怜香
白石 葉菜
M3 青山 葵
荒木 丈二
伊原 啓太(情)
伊藤 成洋(会)
伊藤 佑真
今井 孝明(勉)
菊池 柾人
小柴 拓実
児玉 奈緒
佐藤 一輝
椙村 むつみ(診)
髙宮 一真
武田 拓朗
冨田 翔(薬)
藤井 祐宇(学)
古田 優菜(ス)
細田 桃花
森本 理子
弓桁 千裕(報)
N3 榎本 乃亜
川村 芽生(学)
M2 梅原 瑞希
大井 晶斗
大橋 遼誓
大岩 篤史
大西 虹輝
奥瀬 遥香
小粥 あゆみ
近藤 尊彦
近藤 優衣
雑賀 智代
重田 篤希
澁谷 春輝
世古口 侑己
土屋 桃花
中村 瑠莉
西原 周音
長谷川 楓馬
山岡 伊吹
N2 青柳 茉佑子
杉浦 愛純
高橋 侑里
長谷川 実来
林 真凛
樋山 咲乃
弘田 萌衣
前山 にこ
M1 安藤 龍之介
石倉 稜埜
伊藤 比呂
今井 亮太
岡部 純希
小川 大和
奥田 琉那
加藤 奏
加藤 天志
加藤 初彩
蟹江 凱
木村 衣里
須藤 陽向
當房 凌空
中田 光紀
西脇 凛
林 亮太朗
平岡 祥多
藤澤 亨
堀部 綾音
前川 怜
松本 琉生
満間 智也
山田 歩
山根 司
N1 伊藤 菜那
岩川 千夏
勝 春香
蒲 咲穂
桔川 乃愛
葛谷 空未
久保田 理子
桑原 和花
鴻村 星奈
疋田 爽和
正木 萌瑛
宮崎 りの
森 奈々華
吉田 萌香

(学):学生代表
(会):会計部門長
(情):情報技術部門長
(診):診療環境部門長
(ス):スケジュール部門長
(勉):勉強会部門長
(報):報告書部門長
(薬):薬剤部門長

M:医学部
N:看護学部

## 診療班活動概要

＊勉強会
年間を通して毎週月曜日に、夏山での活動に備えるための勉強会を実施しています。登山に必要な知識、診療活動に必要な知識などを学んでいます。医療面接やバイタル測定、ベッドメイキングなどについては実践も取り入れて練習しています。

＊運営委員会
毎週月曜日もしくは火曜日の昼に、三役や運営委員を交えた約30分の会議を行い診療班を運営しています。

＊定例会
毎週月曜日の勉強会前に定例会を行っています。ここでは診療班の活動に関する連絡事項などを部員全体に周知しています。

＊練習山行
4、5月に1,000m級の山を登り、夏の蝶ヶ岳登山の予行・トレーニングをします。2024年は入道ヶ岳、御在所岳、藤原岳にて行いました。

＊壮行会
6月2日には壮行会を開催し診療所での活動に向けた決意表明をしました。

＊山岳気象講演会

6月18日に猪熊隆之先生（気象予報士、ヤマテン代表取締役、中央大学山岳部監督）に蝶ヶ岳の気象特性と雲から学ぶ気象リスクについてWEB講演をしていただきました。

＊方針確認会議
6月29日には酒々井先生、坪井先生、服部先生、各班長（各副班長）、各部門長が対面で活動方針について情報共有や質疑応答し夏山での活動を前に診療班活動の方針や注意事項を再確認しました。

＊OB・OG訪問
約120名のOBOGの方にご連絡し、約60名の方よりご寄付を頂きました。

＊診療活動

7、8月の診療所開所中は、3～4名の班を11班構成し、7月中旬～8月下旬の全期間診療所に入り、不足した薬剤・衛生材料の補充や予診、診察カルテの記入、バイタル測定、診察の補助を行いました。学生は基本的に24時間診療所内に常駐し、夜間でも患者さんが診察を受けられるようにしています。また、2024年から雲上セミナーを再開しました。

＊雲上セミナー
学生が蝶ヶ岳ヒュッテで行う活動のひとつです。学生による予防的介入活動の一環として安全登山の啓発を目的にセミナーを開催しています。コロナ禍で中止していましたが5年ぶりに再開しました。

＊地上でのサポート（部室待機）
活動期間中、インターネットを利用して診療所の活動報告、症例報告、使用薬剤報告などを行っています。
大学にいる学生は部室に待機して診療所からの定期連絡および緊急連絡に対応します。

＊活動反省会
9月8日に活動反省会を行いました。2024年の反省点や課題を挙げ、2025年に向けた対策などを検討しました。

＊診療所参加スタッフ数・学生数・患者数
2024年の活動同期間中での医療スタッフは22名、学生は37名、患者数は33名でした。

## 運営上の主な変更点
＊活動方法について
2024年はコロナ禍以前の活動体制に戻すように努めました。
診療班の活動に関する各種マニュアルをアップデートしました。

## 診療班活動記録

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2024年 | 1月 | 15日 | 勉強会 | トレーニング |
| | | 22日 | 勉強会 | スライド作成のコツ |
| | | 29日 | 勉強会 | 症例別対処、メールの書き方、山頂報告 |
| | 2月 | 5日 | 勉強会 | 蝶ヶ岳周辺地域、山について |
| | | 19日 | 勉強会 | 診療班の歴史 |
| | | 27日 | 運営委員会 | 練習山行、夏山期間、山岳気象講演会 |
| | 3月 | 5日 | 運営委員会 | 緊急連絡網、夏山スケジュール、テザリング用スマートフォン |
| | | 12日 | 運営委員会 | 練習山行、夏山スケジュール |
| | | 19日 | 運営委員会 | 血圧計、壮行会 |
| | 4月 | 2日 | 運営委員会 | 夏山班、プリンター購入、夏山直前の集まり |
| | | 11日 | 運営委員会 | 練習山行、夏山スケジュール、医療用ポスター、プリンター、壮行会、Wi-Fi |
| | | 15日 | 勉強会 | 山について、YAMAPの使い方、蝶ヶ岳周辺の地名（新歓） |
| | | 16日 | 運営委員会 | 夏山スケジュール、プリンター・パソコン、壮行会・講演会、報告書、国内旅行傷害保険打ち合わせ |
| | | 18日 | 勉強会 | バイタル入門（新歓） |
| | | 23日 | 勉強会 | 夏山の体験談（新歓） |
| | | 23日 | 運営委員会 | 薬剤リスト、新規パソコンの比較、カルテ閲覧申請、雲上セミナー・症例検討会 |
| | | 27日 | 練習登山、藤原岳（1,140m） | 天候不順により中止 |
| | 5月 | 7日 | 運営委員会 | 薬剤リスト、OB・OG訪問、壮行会、夏山スケジュール |
| | | 12日 | 練習登山、入道ヶ岳（906m） | 学生19名参加、全4班構成、田中先生参加、登山隊総括責任者　近藤（M2） |
| | | 13日 | 勉強会 | 医療面接① |
| | | 14日 | 運営委員会 | 薬剤リスト、パソコンとプリンターの見積もり、学生向けガイドライン |
| | | 18日 | 練習登山、御在所岳（1,212m） | 学生43名参加、全9班構成、畑中先生、田中先生参加、登山隊総括責任者　近藤（M2） |
| | | 19日 | ヒュッテオーナー様訪問等 | 酒々井先生、坪井先生、藤井（M3）、川村（N2）、澁谷（M2）、近藤優（M2）、オーナーご自宅、ほりでーゆ訪問、須砂渡キャンプ場事務所にテント一式保管依頼、三股登山口の安全登山啓発ポスター貼り換え |
| | | 20日 | 徳沢ロッヂ・徳澤園・航空隊訪問 | 酒々井先生（診療班代表）が上高地の徳沢ロッヂ・徳澤園・松本市の長野県警察本部航空隊を訪問し挨拶、活動報告、サポート体制確認 |
| | | 20日 | 勉強会 | バイタル |
| | | 21日 | 運営委員会 | 薬剤リスト、夏山参加者の自己負担額、夏山スケジュール |
| | | 27日 | 勉強会 | 薬剤 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 27日 | 運営委員会 | 荷揚げリスト、カルテ、ノンスリップシーツ、壮行会、夏山スケジュール、雲上セミナー、ポスター |
| | 31日 | 旅行保険契約 | 酒々井先生(診療班代表)、東京海上日動保険代理店の柴崎様、総務課の石川様、伊藤成(M3)、古田(M3)が出席し、補償内容、保険料金等を確認し契約した。 |
| 6月 | 2日 | 壮行会(医学研究棟11階講義室B)<br>懇親会(生協) | 三役の先生方、ヒュッテオーナー様、医療スタッフ、卒業生、学生参加、 酒々井代表挨拶、 中村オーナー様お話、坪井先生お話、 診療活動活動に向けた学生代表・ 班長の決意表明、 新聞取材対応等、終了後は懇親会を行いました。 |
| | 3日 | 運営委員会 | 荷揚げリスト、参加者アンケート、予算案、登山計画書、OB・OG訪問、医療スタッフのスケジュール |
| | 3日 | 勉強会 | 医療面接② |
| | 8日 | 第10回夏山フェスタ(ウインクあいち) | 坪井先生、高橋(M4)、冨田(M3)が参加し情報収集 |
| | 10日 | 勉強会 | 医療面接・バイタル連携 |
| | 11日 | 運営委員会 | 荷下げ、会計マニュアル、雲上セミナー |
| | 12日 | 安曇野日赤病院・相澤病院訪問 | 服部先生、早川先生が安曇野日赤病院・相澤病院を訪問し挨拶、活動報告、サポート体制確認 |
| | 17日 | 勉強会 | 緊急出動・危機管理体制 |
| | 17日 | 運営委員会 | 薬剤リスト、ヘリ荷揚げ、3班登山ルート |
| | 18日 | 教育講演会(Zoom) | 猪熊隆之先生(気象予報士、株式会社ヤマテン代表取締役、中央大学山岳部監督)教育講演会「蝶ヶ岳の気象特性と雲から学ぶ気象リスク」 |
| | 24日 | 勉強会 | ローテーション勉強会(ベッドメイキング、輸液・酸素) |
| | 25日 | 運営委員会 | バックバルブマスクの見積書、AMSスコア、方針確認会議、医師不在対応マニュアル |
| | 29日 | 方針確認会議(脳神経科学研究所5階会議室) | 酒々井先生、服部先生、坪井先生、各班長(副班長)、各部門長(計25名)が対面で2024年の診療活動方針について再確認、情報共有、質疑応答した。班員の安全を最優先、診療班員の役割、台風・大雨・落雷などの局地気象時、有症状者等への対応等 |
| 7月 | 1日 | 運営委員会 | 集金マニュアル、登山者カード、部室のデスクトップパソコン購入 |
| | 1日 | 勉強会 | ローテーション勉強会(ベッドメイキング、輸液・酸素) |
| | 8日 | 運営委員会 | 酒々井先生(診療班代表)より三股登山口に至る林道の視察報告、医師不在期間の三役のシフト |
| | 8日 | 勉強会 | 症例共有会・予防的介入 |
| | 16日 | 運営委員会 | 酒々井先生(診療班代表)より三股登山口～診療所～長塀～徳沢～上高地バスセンターへ至る林道の視察報告、参加者マニュアル検討、テントの購入検討、本棚の荷下ろし、ガムテープ・切手の荷揚げ等 |
| | 22日 | 運営委員会 | マニュアル、雲上セミナー、夏山反省会 |
| | 29日 | 準備班報告 | 準備班長藤井(M3)より活動報告 |
| | 29日 | 症例検討会 | 午後8時より診療所研修医を対象に三役の先生方と期間中受診者の症例検討を行った。 |
| 8月 | 6日 | 中間報告 | 4班班長安東(M6)、2班副班長井手上(M6)よりクマの目撃事例について報告、対策を決定 |
| | 7日 | 熱帯低気圧発生への対応 | 酒々井先生(診療班代表)から熱帯低気圧(後の台風5号)発生と動向注視の指示があった。 |
| | 11日 | 台風5号接近への対応 | 酒々井先生(診療班代表)から7班、8班、9班の今後の方針について検討する旨各班長と学生代表へ連絡があった。 |
| | 11日 | 台風5号接近への対応 | 7班の早期下山が三役の電話会議にて決定した。 |
| | 11日 | 台風5号接近への対応 | 8班の活動中止が三役の電話会議にて決定した。 |
| | 12日 | 台風6号接近への対応 | 酒々井先生(診療班代表)から9班と整理班の今後の方針について検討する旨各班長と学生代表へ連絡があった。 |
| | 14日 | 台風6号接近への対応 | 9班の早期下山が三役の電話会議にて決定した。 |
| | 14日 | 台風6号接近への対応 | 整理班の活動日程変更が三役の電話会議にて決定した。 |
| | 14日 | 台風6号接近への対応 | 午後8時、診療所とのZoom会議にて9班の下山タイミングと整理班の移動・下山タイミングについて情報共有した。 |
| | 15日 | 台風6号接近への対応 | 9班班長木村(M6)より全体メイルにて診療所一時閉所の連絡を行った。 |
| 9月 | 2日 | 整理班報告 | 整理班班長西山(M6)より活動報告 |
| | 8日 | 反省会(講義棟2階講義室3) | 酒々井先生、服部先生、坪井先生、早川先生(薬剤部)、畑中先生(OB、一宮市民病院)、学生が参加、学生間で今夏の活動振り返り、今後の対策などについて討論、三役や出席者からご意見を伺った。 |
| | 30日 | 勉強会 | 夏山振り返り会 |
| 10月 | 7日 | 勉強会<br>運営委員会 | 蝶ヶ岳総復習 |
| | 21日 | 勉強会<br>運営委員会 | 高山病・虫刺症 |
| | 28日 | 勉強会 | 医療面接・バイタル連携・発展 |
| 11月 | 11日 | 勉強会 | ローテーション勉強会(心電図、外傷の処置・テーピング) |
| | | 医学部同窓会瑞友会総会(ANAクラウンプラザ　ホテルグランコート名古屋) | 酒々井先生(診療班代表)、藤井(M3)・川村(N3)・伊藤成(M3)・澁谷(M2)が出席、松本隆会長へお礼の挨拶、助成金目録贈呈式にて藤井が目録を受け取りました。 |
| | 18日 | 勉強会 | ローテーション勉強会(心電図、外傷の処置・テーピング) |
| | 25日 | 勉強会 | 薬剤発展 |
| 12月 | 1日 | 名古屋市立大学医学会総会(研究棟11階講義室A、対面) | 藤井(M3)が「2024年名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動報告」を発表、座長は酒々井先生(診療班代表)が務めました。 |
| | 2日 | 勉強会 | 山頂報告、メールの書き方 |
| | 9日 | 勉強会 | 卒業生勉強会 |
| 2025年　2月 | 1日 | 名古屋市立大学交流会表彰 | 名古屋市立大学交流会(名古屋マリオットアソシアホテル)にて蝶ヶ岳ボランティア診療班の歴代代表4名(太田伸生(1998～2005年)、津田洋幸(2006～2008年)、森山昭彦(2009～2012年)、酒々井眞澄(2013年～現在)(敬称略))が本学の知名度を高めた功績により表彰されました。賞金は4名全員の合意にもとづき全額が診療班に寄付されました。 |

診療録閲覧申請をした部門と日付および目的

| 日付 | | 目的 |
|---|---|---|
| 2024年4月19日 | 勉強会部門* | 勉強会資料作成 |

*勉強会部門医学部3年今井孝明が責任者として診察録閲覧申請を行った。

# 通信障害の改善に向けたテザリング用スマートフォンの試験的導入

蝶ヶ岳ボランティア診療班
2024 年度情報技術部門長　伊原啓太（M3）

診療所の通信環境を改善するため、2024 年よりテザリング用スマートフォンを試験的に導入した。これにより、診療所内のテザリングのアクセスポイントとしての役割に加えて、現地スマートフォンとしても利用できる。

【導入に至った経緯】

2023 年の活動では、診療所内でポケット Wi-Fi を利用していたが、この方法では診療所での通信環境が不安定であった。これを受けて、au ユーザーが試しにテザリングをしたところ通信状態が改善された。そこで、2024 年は診療活動中に au 回線のテザリング用のスマートフォンを試験的に導入した。

【テザリング用スマートフォン】

会社 ： au
機種 ： Redmi12 5G 4GB/128GB モデル
使用期間 ： 6 月 1 日～8 月 31 日
サイズ ： 6.8 インチ、200g
ストレージ ： 128GB
メモリ ： 4G
テザリング容量 ： 30GB
金額 ： 20,087 円（初年度）

【まとめ】

これまで使用していたポケット Wi-Fi は 15GB のテザリング制限があり容量がやや少なかったが、テザリング用スマートフォンに変更したことで使用できる容量が 4 倍の 30GB に増えた。スマートフォンのデータ通信は 4G 無制限で使用できるため、部室との連絡や記録用の写真も撮ることが可能であり、安定した通信環境の維持に役立った。2025 年以降も同様の対応を継続する予定であるが、代案についても検討したい。

# 2024 年度 会計収支決算報告

2023 年 11 月 1 日～2024 年 10 月 31 日蝶ヶ岳ボランティア診療班の収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

第 27 期会計伊藤成洋

| 収入の部 | | 支出の部 | | (内R5年度大学支援金) | (内R6年度大学支援金) |
|---|---|---|---|---|---|
| 前年度繰越金 | 5,273,620 | 医薬品費 | 79,369 | | |
| (内大学からの支援金) | 221,681 | 診療用備品費 | 226,603 | | |
| 寄付 | 642,500 | 診療用消耗品費 | 3,380 | | |
| 山頂募金箱 | 75,019 | 部室備品費 | 282,892 | 69,056 | |
| 大学からの支援金 | 223,200 | 一般消耗品費 | 2,288 | | |
| (2024.4.1～2025.3.31) | | 自炊用品費 | 0 | | |
| 瑞友会(名古屋市立大学同窓会) | 100,000 | 山用品費 | 18,440 | | |
| 松本市山岳診療所報償費 | 200,000 | 旅行保険料 | 51,697 | | 51,697 |
| 長野県山岳遭難防止対策協会 | 80,000 | 通信・運搬費 | 63,206 | | |
| 名古屋市立大学医学会 | 200,000 | ヒュッテ宿泊・食費 | 466,770 | | |
| 銀行利息 | 35 | (医療スタッフの食費は除く) | | | |
| 積立金(PC代) | 72,702 | 運営活動費 | 83,148 | | |
| | | 報告書印刷・掲載費 | 152,625 | 152,625 | |
| | | 学術活動費 | 40,770 | | |
| | | 積立金 | 50,000 | | |
| (年度内合計) | 1,593,456 | (年度内合計) | 1,521,188 | 221,681 | 51,697 |
| | | (年度内差損) | 72,268 | | |
| | | 次年度繰越 | 5,345,888 | | 48,303 |

備考)

| | |
|---|---|
| 1.寄付 | OB・OG からいただいたご寄付は、学生の宿泊・食費に使わせていただきました。余った金額は 2025 年度の学生の宿泊・食費に使わせていただく想定です。 |
| 2.診療用備品費 | 酸素ボンベやデスク、ベッド等診療の際に必要な備品代 |
| 3.診療用消耗品費 | 乾電池等、診療所内にある消耗品代 |
| 4.部室備品費 | 部室 PC、プリンター、スキャナー、血圧計等の代金 |
| 5.一般消耗品費 | ハガキ代等 |
| 6.旅行保険料 | 医療スタッフ・学生が加入する旅行保険料金(参加者全員分を診療班が負担しました) |
| 7.通信・運搬費 | 部室の電話代・ヘリ荷揚げ物品の配送料金 |
| 8.運営活動費 | OB・OG 訪問等の交通費等 |
| 9.学術活動費 | 猪熊氏の講演会謝金 |
| 10.積立金 | 部室 PC 購入のための積立金(2025 年度の分) |

2024 年度会計監査報告

2025 年 1 月 17 日、会計帳簿、現金、領収書などの監査を行い、決算報告書に誤りのないことを確認しました。

第 27 期会計監査
名古屋市立大学大学院看護学研究科
看護国際推進センター教授

鄭 且均

# スタッフ派遣日程表

開所期間:2024 年 7 月 24 日(水)～8 月 19 日(月)

| 日程 | 学生 | | 医師 | 看護師 | 薬剤師/理学療法士 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7／13(土) | | | 酒々井眞澄 | | |
| 7／14(日) | | | 酒々井眞澄 | | |
| 7／20(土) | | | 今村篤 | | |
| 7／21(日) | | | 今村篤 | | |
| 7／24(水) | 準備班 | | 榊原嘉彦 | | |
| 7／25(木) | 準備班 | | 榊原嘉彦/浅井清文 | | |
| 7／26(金) | 準備班 | 1班 | 榊原嘉彦/浅井清文 | | |
| 7／27(土) | | 1班 | 浅井清文/佐々木謙 | | |
| 7／28(日) | | 1班 | 佐々木謙 | | 藤堂庫治(理) |
| 7／29(月) | 2班 | 1班 | 安藤詩音里/土屋佑太 | 日高理彩 | 藤堂庫治(理) |
| 7／30(火) | 2班 | | 岡嶋一樹/安藤詩音里<br>土屋佑太 | 日高理彩 | |
| 7／31(水) | 2班 | 3班 | 岡嶋一樹/安藤詩音里<br>土屋佑太 | | |
| 8／1(木) | | 3班 | 岡嶋一樹 | | |
| 8／2(金) | 4班 | 3班 | 岡嶋一樹/早川純午 | 鈴木美帆 | |
| 8／3(土) | 4班 | | 早川純午 | 鈴木美帆 | |
| 8／4(日) | 4班 | | 早川純午 | 鈴木美帆 | |
| 8／5(月) | 4班 | 5班 | | | |
| 8／6(火) | | 5班 | 青木康博 | | |
| 8／7(水) | 6班 | 5班 | 青木康博 | | |
| 8／8(木) | 6班 | | 青木康博 | | |
| 8／9(金) | 6班 | 7班 | 青木康博 | | |
| 8／10(土) | | 7班 | 三浦裕/服部友紀 | | 早川智章(薬)<br>桜井春香(理) |
| 8／11(日) | | 7班 | 服部友紀 | | 早川智章(薬)<br>桜井春香(理) |
| 8／12(月) | 8班 | 7班 | 服部友紀/高山悟<br>小濱和貴 | | 早川智章(薬) |
| 8／13(火) | 8班 | | 高山悟/小濱和貴 | | |
| 8／14(水) | 8班 | 9班 | 高山悟/小濱和貴<br>田中秀和 | | |
| 8／15(木) | | 9班 | 田中秀和 | | |
| 8／16(金) | 整理班 | 9班 | 田中秀和/畑中景 | | |
| 8／17(土) | 整理班 | | 畑中景/薊優太朗<br>杉山智美 | | |
| 8／18(日) | 整理班 | | 畑中景/薊優太朗<br>杉山智美/坪井謙 | 酒井田正克 | |
| 8／19(月) | 整理班 | | 畑中景/坪井謙 | 酒井田正克 | |

日高理彩看護師は一身上の都合により登山を断念しました。

台風 5 号接近に伴い、服部友紀医師、早川智章薬剤師、学生 7 班は下山を 1 日早めました。

台風 5 号接近に伴い、高山悟医師、小濱和紀医師、学生 8 班は登山を断念しました。

台風 6 号接近に伴い、田中秀和医師、学生 9 班は下山を 1 日早めました。

台風 6 号接近に伴い、畑中景医師の登山を 16 日から 17 日に変更しました。

台風 6 号接近に伴い、整理班は 18 日登山、20 日下山に変更しました。

# 学生登山隊日程表

| 班 | 日程 | リーダー | サブリーダー | 班員 | 班員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 準備班 | 7/24~7/26 | M3 藤井祐宇 | M3 高宮一真 | M2 大井晶斗 | M2 澁谷春輝 |
| 1 班 | 7/26~7/29 | M3 伊原啓太 | M3 古田優菜 | M2 近藤優衣 | M2 重田篤希 |
| 2 班 | 7/29~7/31 | M6 岩城俊亮 | M6 井手上駿 | M2 大岩篤史 | M2 山岡伊吹 |
| 3 班 | 7/31~8/2 | M4 高橋航太朗 | N4 白石葉菜 | M2 奥瀬遙香 | M2 大西虹輝 |
| 4 班 | 8/2~8/5 | M6 安東知里 | M3 武田拓朗 | M3 細田桃花 | M2 大橋遼誓 |
| 5 班 | 8/5~8/7 | M4 原田悠希 | M6 伊藤理子 | M2 長谷川楓馬 | |
| 6 班 | 8/7~8/9 | M6 井手上駿 | M4 若杉大路 | N2 杉浦愛純 | M1 加藤初彩 |
| 7 班 | 8/9~8/12 | M4 鈴木智央里 | M5 久松脩典 | M2 世古口侑己 | |
| 8 班 | 8/12~8/14 | M5 石川総由 | M5 迫千恵音 | N3 榎本乃亜 | M1 中田光紀 |
| 9 班 | 8/14~8/16 | M4 水野太陽 | M6 木村颯花 | N3 川村芽生 | M1 今井亮太 |
| 整理班 | 8/16~8/19 | M6 西山真由 | M3 冨田翔 | M3 弓桁千裕 | M2 近藤尊彦 |

台風 5 号接近に伴い、学生 7 班は下山を 1 日早めました。
台風 5 号接近に伴い、学生 8 班は登山を断念しました。
台風 6 号接近に伴い、学生 9 班は下山を 1 日早めました。
台風 6 号接近に伴い、整理班は 18 日登山、20 日下山に変更しました。

診療所内部の写真（酒々井代表提供）

## 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ　No._____-_____

問診用カルテ(学生用カルテ)

ふりがな
氏名 _____様　性別　男・女

生年月日　大正・昭和・平成_____年 _____月 _____日 ____歳

本日の宿泊先……テント場　/　ヒュッテ内(部屋名　　)

住所
(〒　　－　　)

身長 _____cm　体重 _____kg　職業_____

**記載者** _____

**来診日時** ____月____日
____時____分 (24時間表記)

備考/使用薬剤・衛生材料

**主訴** _____

**現病歴**

**アレルギー** (薬物・食物・金属等) _____

(アルコールアレルギー)　有 ・ 無

**服薬歴** _____

**既往歴** (高山病・登山中の外傷など) _____

(手術歴・健診の結果) _____

**生活習慣** 喫煙 _____本/日 _____年　飲酒 _____/日

登山歴____年　1年に____回　週に(　　)日程度運動する

★**AMSスコア**

| 頭痛 | 消化器 | 疲労感 | めまい | 計 | 意識 | 歩行テスト | 浮腫 | 計 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

★**行動歴**

前日の睡眠　_____時間

入山____日目/全行程____日

| 時刻 | 場所 |
|---|---|
| 例:7:00 | 三俣登山口　出発 |

登山時間_____時間

今後の予定　下山 /縦走(　　方面)

下山予定時刻(　:　)

水分量 _____mL(　　)
_____mL(　　)

食欲/食事

飲酒状況　　排便/排尿

## 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ No.　　－

診察用カルテ（医師用カルテ）

※学生不在時であっても、問診用カルテの患者の個人情報、★マークのある所は埋めてください。

現病歴および身体所見　　患者氏名（ふりがな）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

診断名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

処置・処方等

薬剤等の準備者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　調製者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　医師確認 □（レ点記入）

（使用薬剤、衛生材料を記載、医師の処方後に準備者と調製者はサインを記入、医師のチェックを受けてください）

検査結果　時刻　＿時＿分　＿時＿分　＿時＿分

$O_2$ 投与流量……＿＿＿(L/min)　＿＿＿(L/min)　＿＿＿(L/min)

$O_2$ 投与時間……＿＿＿分　＿＿＿分　＿＿＿分

転帰

医師名（サイン）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

| Vital sign | ＿＿時＿＿分 (　　) |
|---|---|
| $SpO_2$ (%) | |
| 脈拍数（回/分） | |
| 血圧（mmHg） | / |
| 体温（℃） | |
| 呼吸数（回/分） | |

| 血糖検査 | ＿＿時＿＿分 (　　) |
|---|---|
| 血糖値(mg/dL) | |

| 尿検査 | ＿＿時＿＿分 (　　) |
|---|---|
| 白血球 | |
| ｳﾛﾋﾞﾘﾉｰｹﾞﾝ | |
| 蛋白質 | |
| pH | |
| 潜血 | |
| 比重 | |
| ｹﾄﾝ体 | |
| ブドウ糖 | |

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ No.　　－

学生不在時用　医師用カルテ

ふりがな

**氏名** ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様　性別　男・女

生年月日　大正・昭和・平成＿＿＿年 ＿＿＿月 ＿＿＿日 ＿＿歳

本日の宿泊先……テント場　/　ヒュッテ内（部屋名　　）

住所

（〒　　－　　）

身長 ＿＿＿＿cm　体重 ＿＿＿＿kg　職業＿＿＿＿

来診日時　＿＿月＿＿日
＿＿時＿＿分

現病歴および身体所見

入山＿＿日目/全行程＿＿日

| 時刻 | 場所 |
|---|---|
| 例:7:00 | 三俣登山口　出発 |

登山時間＿＿＿＿時間

今後の予定　下山 /縦走（　　方面）

下山予定時刻（　：　）

水分量 ＿＿＿＿mL（　　）
＿＿＿＿mL（　　）

AMS スコア

| 頭痛 | 消化器 | 疲労感 | めまい | 計 | 意識 | 歩行テスト | 浮腫 | 計 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班カルテ No.　　－

学生不在時用　医師用カルテ

処置・処方等

薬剤等の準備者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　調製者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　医師確認 □（レ点記入）

（使用薬剤、衛生材料を記載、医師の処方後に準備者と調製者はサインを記入、医師のチェックを受けてください）

検査結果　時刻　＿時＿分　＿時＿分　＿時＿分

$SpO_2$（%）・・・・・・・・＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿　＿＿＿＿＿

$O_2$ 投与流量・・・・・・＿＿＿(L/min)　＿＿＿(L/min)　＿＿＿(L/min)

$O_2$ 投与時間・・・・・・＿＿＿分　＿＿＿分　＿＿＿分

転帰

診断名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

医師名（サイン）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

| Vital sign | ＿＿時＿＿分 (　　) |
|---|---|
| $SpO_2$ (%) | |
| 脈拍数（回/分） | |
| 血圧（mmHg） | / |
| 体温（℃） | |
| 呼吸数（回/分） | |

| 血糖検査 | ＿＿時＿＿分 (　　) |
|---|---|
| 血糖値(mg/dL) | |

| 尿検査 | ＿＿時＿＿分 (　　) |
|---|---|
| 白血球 | |
| ｳﾛﾋﾞﾘﾉｰｹﾞﾝ | |
| 蛋白質 | |
| pH | |
| 潜血 | |
| 比重 | |
| ケトン体 | |
| ブドウ糖 | |

診察前の体調確認表

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 熱（37.5℃以上）がある、または、平熱より高い熱がある<br>体温（　　℃） | |
| 2 | のどの痛みや鼻水、たんがある | |
| 3 | 咳や息苦しさがある | |
| 4 | においや味を感じにくい | |
| 5 | 体のだるさがある | |
| 6 | 体に発疹がある | |
| 7 | 下痢または嘔吐の症状がある | |
| 8 | 目の赤みや異物感（ゴロゴロした感じ）がある | |
| 9 | 14 日以内に海外への渡航歴がある、または、移住していた<br>渡航国（　　） | |
| 10 | 14 日以内に新型コロナウイルス感染症の陽性者との接触歴がある | |

上記 1～10 に該当なし ☐

## 2024 年の診療所開所に向けた各部門の準備、活動後の反省と対策

学生代表　藤井祐宇（M3）

5 月 19 日（日）に酒々井先生、坪井先生、藤井（学生代表）、川村（看護代表）、澁谷（M2）、近藤（M2）で蝶ヶ岳ヒュッテオーナー様、ほりで一ゆ様、須砂渡キャンプ場管理様に活動報告・挨拶、テント一式保管依頼、その後三股登山口にて予防的介入ポスターを張り替えました。6 月 2 日（日）に三役の先生方、卒業生、医療スタッフ、学生が参加し 5 年ぶりに壮行会を行いました。6 月 29 日（土）に三役の先生方と各班長・副班長、各部門長など学生 25 名が対面で方針確認会議を実施、「安全な活動」という診療班の最重要ポリシーのもと遵守事項を再確認しました。
2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 2 類相当から 5 類へ変更され大学の規定も改訂されたことから、医療スタッフ向けスタッフマニュアル、学生向け参加のしおり、診療活動における感染対策のマニュアル等をアップデートしました。

運営会議・学外協力施設等訪問のスケジュール調整と手土産の手配、学生が活動に参加するにあたって必要な書類等の準備と学生課への提出など運営面での活動を行いました。加えて、6 月 18 日（火）猪熊氏講演会スケジュール調整・実施、11 月 16 日（土）医学部同窓会瑞友会総会にて松本会長への挨拶（藤井、川村、伊藤（会計部門長）、澁谷が参加）、助成金目録贈呈式、12 月 1 日（日）名市大医学会総会での活動報告などがあります。

歴代幹部間の連絡が不十分であった反省から 2025 年の活動継続に向けて定期的に幹部会を行うように決めました。連絡の流れは「部門→幹部会→定例会→運営委員会」とします。

会計部門長　伊藤成洋（M3）

必要物品等の見積もりと各支払い、旅行損害保険への加入手続きと支払い、診療所および OBOG 訪問での寄付金の管理、電子領収書の準備と発行、ヒュッテ公衆電話で使用する小銭を準備しました。口座残高確認、必要に応じて当座から普通への資金移動、2025 年に向けた予算の立案、決算書の作成と監査、酒々井先生との打ち合わせなどを行いました。

2023 年にご寄付いただいた方の氏名が報告書に未記載となる事例が発生しました。再発防止策として新たに「寄付金の取り扱いマニュアル」を作成しこれを遵守します。部門間での連絡を部門長のみではなく、部門に所属する学生全員で把握します。2024 年の事例を次年度会計部門に引き継ぎ再発を防止します。2025 年は医療スタッフの食事経費管理を新たに行います。

薬剤部門長　冨田翔（M3）

薬剤と衛生材料について、附属病院薬剤部の早川先生（運営委員）と相談し、6 月中に発注点、荷上げ数を決定、この旨運営会議に報告し了承されたため、ヘリ荷上げ、歩荷により荷揚げを行いました。医薬品集を改訂しました。7 月に部室待機薬剤管理マニュアル、医療スタッフ向けに

学生不在時の薬剤管理マニュアルを作成しました。期限切れの薬剤・衛生材料を閉所までに歩荷で荷下げし使用可能薬剤リストをアップデートしました。

感染性廃棄物について、6 月に名古屋市に 2023 年の医療廃棄物処理状況を報告、医療廃棄物処理の委託先(中部メディカル有限会社)へ段ボール等を発注、7 月に中部メディカル有限会社と契約、8 月に医療廃棄物の取り扱いについて医療スタッフへ周知、 医療廃棄物を受け取り、中部メディカル有限会社へ廃棄物を受け渡し、その旨名古屋市へ報告しました。

開所期間中に薬剤・衛生材料のリスト記載在庫数と診療所で学生が実際にカウントして確認した数との間に数値の不一致が頻発したため、2025 年は薬剤部門が責任を持って在庫の数え方や期限確認の仕方などを全班員に徹底します。

診療環境部門長　椙村むつみ（M3）

5 月にヘリ荷上げリスト作成を開始しました。5 月末に不足物品を購入、越冬の影響を受けているか不明なものに関しては、発注前に準備班に確認していただくように対応しました。テントで前泊する班には寝袋やテントの準備や確認を指示しました。ノンスリップシーツの使い方や部室待機マニュアル等について適宜アップデートしました。登山者アンケートについて試験的に紙と Google フォームの両方で行いました。6 月上旬にカルテ等の印刷、ヘリ荷上げ物品が重くなったため、各班に協力してもらい一部歩荷で運ぶ対応をとりました。ヘリ荷上げ物品の詳細はヒュッテオーナー様と相談、最終的に 6 月下旬にヘリ荷上げを行いました。

カルテの種類が学生用カルテ、学生不在時医師用カルテ、医師用カルテと多く、学生不在時医師用カルテの内容は、医師用カルテと学生用カルテを統合したものであり廃止の可否について 2025 年 4 月までに決定します。

スケジュール部門長　古田優菜（M3）

3 月に OBOG に連絡先等の変更ついてアンケートし名簿をアップデートしました。5 月に OBOG 訪問実施の周知と訪問する学生の割り振り、医療スタッフの参加受付と診療参加呼びかけ、学生向け夏山参加希望アンケート、日程調整と最終決定しました。学生に診療所の開所期間中の部室待機者を募集しました。診療活動進行状況を随時確認しました。8 月に延べ参加人数と日数を加味した旅行保険資料を作成、寄付者へのお礼状の準備を各班へ指示しました。運営会議やメールにて人員配置等の現状ついて三役の先生方に随時報告・検討しました。

当該部門の不手際により、関係の医療スタッフに大変なご迷惑をお掛けした事例が 3 件発生しています。

①食事に関するアンケート内容の未伝達

学生不在時の医療スタッフの食事アンケートがヒュッテスタッフに未伝達という事例がありました。
対策→日程・食事数の一覧表を作成、開所前にヒュッテオーナー様宛伝達、学生代表もしくは三役の先生方より正確な開始日と一覧表の確認をヒュッテオーナーに伝達することでリマインドする。

②医療スタッフへ誤った登山日程の伝達
医療スタッフへスケジュール部門と班長で異なる日程を伝えたことで医療スタッフの混乱を招いたという事例がありました。原因は HP 上の日程更新と班長への連絡の際にスケジュール部門から誤った日程が伝えられた為です。
対策→スケジュール部門内から対象者に情報を送る前に部門内でダブルチェックします。医療スタッフの登山計画書を班長からスケジュール部門が受け取り次第、部門で必ず内容をよく確認し HP と照らし合わせて日程をダブルチェックします。
③医療スタッフの日程変更の情報伝達不足と登山計画書の確認不足
医療スタッフの日程変更が班長のみにしか伝わっておらず関係者間で混乱が生じたという事例がありました。なお、登山計画書には日程変更の旨が記載されていました。また、スケジュール部門では登山計画書への住所の記入漏れがあることに気づくことができませんでした。原因は班長とスケジュール部門間の正確な情報伝達不足と登山計画書の確認不足です。
対策→登山計画書を班長からスケジュール部門が受け取り次第、部門で必ず内容をよく確認し、HP と照らし合わせて日程をダブルチェックします。医療スタッフから班長に日程の変更に関する申し出があった場合、必ずスケジュール部門にその旨伝達するように班長に伝えます。開所前には、各班長とスケジュール部門で打合せを行い、上記の事例と対策を共有します。必要に応じで打合せを追加します。これを継続します。

情報技術部門長　伊原啓太（M3）
2024 年新たに、テザリングスマホ(Redmi 12 5G 4GB/128GB モデル)を導入しました（詳細は本報告書p28 参照）。チャット・音声交信の際に Discord を、ファイルの共有には OneDrive を主に利用しました。Discord を用いて引き継ぎ、会計処理、薬剤在庫管理・発注の連絡を一括管理しました。パソコン・テザリングスマホ・トランシーバーなどは事前に動作確認を行いました。5 月中旬より参加者日程表を準備開始、6 月上旬にホームページに暫定版を公開、適宜アップデートしました。
複数の連絡通信経路による情報の行き違いの事例が報告されたため 2025 年は連絡通信経路を一本化します。合せて Discord の適切な運用規定を決めます。

勉強会部門長　今井孝明（M3）
診療班活動に参加する学生として必要な知識を学べるよう勉強会の内容を決め、一年を通して毎週月曜日業後に勉強会を継続しました。内容は登山に必要な知識や医療面接・バイタル測定、薬剤カウント、メールの書き方など多岐にわたります。医療面接やバイタル測定は実践的に練習しました。
勉強会に継続的に参加してもらう方策、学生登山隊員選出に勉強会への出席率を加味するための新たな出席管理システムを 2025 年 4 月までに決定します。

報告書部門長　弓桁千裕（M3）

6 月下旬に診療所で用いる名札の整理と新規作成、9 月初旬に「2024 年度活動報告書」の作成を開始しました。掲載内容の整理と目次決定、原稿依頼と集約、編集部でのドラフト原稿チェック、酒々井先生との打ち合わせ、ドラフト原稿修正、初稿入稿、校正を行った後、2024 年度報告書は 200 部発注し納品しました。5 年ぶりに寄付者への報告書の郵送を再開しました。報告書には寄付者への手書きのお礼状を添えています。納品された報告書は部室・名市大医学会事務局（学友会館 2 階）・名市大医学部同窓会瑞友会事務局（学友会館 2 階）、酒々井先生の研究室等に必要部数を配布しました。

（2024年8月撮影）

# 診療記録

| No. | 日付 | 性別 | 年齢 | 診断名 | 使用薬剤・衛生材料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 24-001 | 7月25日 | 男 | 72歳 | 擦過傷 | 滅菌メディガーゼ（4つ折り）2枚、テーピング1枚 |
| 24-002 | 7月26日 | 女 | 61歳 | 前額部裂傷 | ロキソプロフェン2T、アルウェティ9枚、ステリストリップ1枚、ヘキシジン2枚、滅菌メディガーゼ（8つ折り）2枚、処置用ハサミ、処置用ピンセット、伸縮性筒状ネット包帯20cm |
| 24-003 | 7月26日 | 女 | 67歳 | 両側膝関節痛 | セルタッチテープ4枚 |
| 24-004 | 7月26日 | 男 | 62歳 | 急性高山病 | ドンペリドン10mg1錠、ロキソプロフェン60mg1錠 |
| 24-005 | 7月27日 | 男 | 23歳 | AMS疑い | |
| 24-006 | 7月27日 | 女 | 45歳 | 急性高山病 | ドンペリドン10mg1錠、オキシジェンカニューラ1個 |
| 24-007 | 7月27日 | 女 | 64歳 | 急性高山病 | ロキソプロフェンNa 60mg1錠 |
| 24-008 | 7月29日 | 女 | 69歳 | マダニ咬傷 | 生理食塩水100ml、ゲンタミン、アルウェティ5枚、キシロカイン1%アンプル、針付きナイロン縫合糸、 滅菌メディガーゼ（8つ折り）3枚、注射針18G、処置用ハサミ、処置用持針器、処置用ピンセット |
| 24-009 | 7月29日 | 男 | 73歳 | 虫刺症 | アルウェティ1枚、滅菌メディガーゼ(8つ折り)1枚、リンデロンVG軟膏 |
| 24-010 | 7月29日 | 女 | 45歳 | AMS(軽度) | ドンペリドン10mg2T |
| 24-011 | 7月29日 | 女 | 64歳 | AMS | 塩酸メトクロプラミド、テルモシリンジ10ml、輸液セット、ハルトマン輸液、サーフロー針22G、三方活栓、アルウェティ3枚、血糖測定チップ、穿刺針2本 |
| 24-012 | 7月29日 | 女 | 35歳 | 急性高山病 | ロキソプロフェン60mg2T、アルウェティ |
| 24-013 | 7月30日 | 男 | 59歳 | 低体温 | アルウェティ1枚 |
| 24-014 | 7月30日 | 女 | 13歳 | 接触性皮膚炎の疑い | リンデロンVG軟膏3g、舌圧子1個、滅菌メディガーゼ（8つ折り）2枚 |
| 24-015 | 7月31日 | 男 | 49歳 | 急性上気道炎 | カロナール300mg3T、アルウェティ3枚 |
| 24-016 | 7月31日 | 女 | 23歳 | 手湿疹 | リンデロンVG軟膏3g |
| 24-017 | 7月31日 | 男 | 42歳 | こむらがえり | 芍薬甘草湯3包 |
| 24-018 | 8月1日 | 女 | 57歳 | Dehydration | |
| 24-019 | 8月2日 | 男 | 56歳 | 筋クランプ | アルウェティ1枚、市販マスク（ウイルスカット）1枚 |
| 24-020 | 8月2日 | 女 | 31歳 | 左膝下肢打撲傷 | セルタッチテープ2枚、アルウェティ |
| 24-021 | 8月3日 | 男 | 43歳 | 両側踵上皮剥離(靴擦れ) | ゲンタシン軟膏0.1%、アルウェティ1枚、バーミロール、処理用ピンセット |
| 24-022 | 8月3日 | 男 | 69歳 | 急性高山病(軽症) | カロナール4錠、アルウェティ1枚 |
| 24-023 | 8月3日 | 女 | 67歳 | 右前額部挫創 | アルウェティ1枚 |
| 24-024 | 8月3日 | 女 | 71歳 | 高山病 | アルウェティ1枚 |
| 24-025 | 8月6日 | 女 | 47歳 | 打撲疑い | セルタッチテープ |
| 24-026 | 8月7日 | 女 | 66歳 | 高山病の疑い | アルウェティ2枚、舌圧子1本、ノンスリップシーツ、ドンペリドン2T |
| 24-027 | 8月8日 | 男 | 10歳 | 高山病の疑い | アルウェティ、舌圧子 |
| 24-028 | 8月8日 | 男 | 67歳 | 一過性意識障害 | 舌圧子、アルウェティ2枚、ゲンタシン軟膏、綿棒1本 |
| 24-029 | 8月8日 | 女 | 43歳 | 右手掌擦過 | 毛抜き、アルウェティ2枚、ニトリル手袋Mサイズ、生理食塩水、綿棒、ゲンタシン軟膏、滅菌メディガーゼ（8つ折り）、注射針18G |
| 24-030-1 | 8月9日 | 女 | 25歳 | 急性胃腸炎の疑い | アルウェティ3枚、ウロラグスティックス |
| 24-030-2 | | | | 急性胃腸炎の疑い | |
| 24-030-3 | | | | ケトアシドーシス<br>(アセトン血性嘔吐症) | ウロラグスティックス |
| 24-031 | 8月9日 | 男 | 45歳 | 痛風 | |
| 24-032 | 8月10日 | 女 | 45歳 | 高山病 | アルウェティ |
| 24-033 | 8月11日 | 男 | 46歳 | 右膝関節炎 | ロキソプロフェン4錠、セルタッチテープ1枚 |

# 2024年度使用薬剤集計

A.薬剤

| 整理番号 | 薬品種類 | 薬品名 | 単位 | 初期値 | 発注点 | 開所時 | 総使用数 | 使用日数 | 補給数 | 補給回数 | 2018年 | 2019年 | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A-3 | 内服薬 | ロキソプロフェン錠60mg EMEC | T | 70 | 30 | 92 | 10 | 5 | 0 | 0 | 27 | 20 | 0 | 9 |
| A-7 | 内服薬 | ダイアモックス錠250mg | T | 20 | 10 | 100 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| A-9 | 内服薬 | ニトロペン舌下錠0.3mg | T | 10 | 5 | 100 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A-14 | 注射薬 | プリンペラン注射液10mg | A | 15 | 10 | 20 | 1 | 2 | 0 | 0 | 5 | 4 | 0 | 0 |
| A-22 | 注射薬 | ブドウ糖注50%(20mL)PL | 本 | 20 | 10 | 10 | 0 | 1 | 20 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| A-25 | 注射薬 | キシロカイン注ポリアンプ1%10mL | 本 | 9 | 5 | 10 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| A-31 | 注射薬 | 生理食塩液PL「フソー」100mL | 本 | 20 | 10 | 18 | 2 | 3 | 0 | 0 | 3 | 9 | 0 | 1 |
| A-32 | 外用薬 | ボルタレンサポ25mg | T | 10 | 5 | 10 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| A-33 | 外用薬 | リンデロン-VG軟膏0.12%5g | 本 | 15 | 5 | 9 | 1 | 3 | 0 | 0 | 2 | 1.5 | 0 | 1 |
| A-35 | 外用薬 | ゲンタシン軟膏0.1%10g | 本 | 10 | 5 | 9.5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2.5 | 0 | 0.5 |
| A-44 | 消毒液 | 消毒用エタノールIP「ケンエー」 | 本 | 2 | 1 | 9.5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A-48 | 医療材料 | ウロラブスティックスSG-L(検尿テープ) | 瓶 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0.5 | 0 | 0 |
| A-50 | 医療材料 | 血糖試験測定チップ(メディセーフ用) | 箱 | 1.5 | 1 | 0 | 0.5 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| A-51 | 医療材料 | 採血用穿刺針(メディセーフファインタッ | 箱 | 1.5 | 1 | 0.5 | 0.5 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| A-54 | 内服薬 | カロナール錠300 | T | 70 | 30 | 89 | 7 | 3 | 0 | 0 | 30 | 55 | 2 | 0 |
| A-55 | 注射薬 | KN3号輸液(500mL袋) | 本 | 20 | 10 | 20 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| A-56 | 注射薬 | アトロピン注0.05%シリンジ | 本 | 5 | 3 | 10 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A-57 | 注射薬 | アドレナリン注0.1%シリンジ | 本 | 8 | 4 | 10 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A-59 | 内服薬 | タリオン錠10mg | T | 40 | 20 | 98 | 0 | 1 | 0 | 0 | 12 | 0 | 2 | 0 |
| A-61 | 外用薬 | セルタッチテープ | 枚 | 126 | 49 | 63 | 10 | 5 | 0 | 0 | 28 | 19 | 0 | 7 |
| A-62 | 眼科薬剤 | クラビット点眼液1.5%(5ml) | 本 | 5 | 3 | 9 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0.5 | 1 | 0 | 1 |
| A-63 | 消毒液 | ゴージョー60ml | 本 | 10 | 5 | 31 | 0.5 | 1 | 24 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| A-64 | 処置用 | 注射用水　広口開栓500mL | 本 | 5 | 1 | 20 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A-65 | 内服薬 | ドンペリドン錠10mg「トーワ」 | T | 70 | 30 | 94 | 6 | 5 | 0 | 0 | 21 | 20 | 0 | 5 |
| A-66 | 内服薬 | ネキシウムカプセル20mg | T | 20 | 10 | 100 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| A-67 | 内服薬 | ビオフェルミンR錠 | P | 50 | 30 | 100 | 0 | 1 | 0 | 0 | 6 | 2 | 0 | 0 |
| A-68 | 注射薬 | メイロン7%20ml | 本 | 20 | 10 | 10 | 0 | 0 | 10 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| A-69 | 注射薬 | 生理食塩液PL「フソー」500mL | 本 | 10 | 0 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 5 | 0 | 1 |
| A-71 | 注射薬 | ハルトマン輸液pH8「NP」(500mL) | 本 | 20 | 10 | 20 | 1 | 2 | 0 | 0 | 7 | 3 | 0 | 0 |
| A-73 | 内服薬 | ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒 | 包 | 21 | 10 | 42 | 3 | 2 | 0 | 0 | 6 | 3 | | |
| A-75 | 内服薬 | ダラシンカプセル150mg | T | 20 | 10 | 100 | 0 | 1 | 0 | 0 | | | | |
| A-76 | 注射薬 | ソル・メドロール静注用40mg | V | 5 | 3 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | | | | |
| A-77 | 吸入薬 | メプチンエアー10μg吸入 | 個 | 10 | 5 | 10 | 0 | 1 | 0 | 0 | | | | |
| A-78 | 処置用 | カテゼリー | 包 | 20 | 10 | 30 | 0 | 0 | 70 | 2 | | | | |
| A-79 | 内服薬 | ケフラールカプセル250mg | T | 20 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| A-80 | 内服薬 | ニフェジピンCR10mg | T | 40 | 20 | 100 | 0 | 1 | 0 | 0 | | | | |

B.衛生材料

| 整理番号 | 材料種類 | 衛生材料名 | 単位 | 初期値 | 発注点 | 開所時 | 総使用数 | 使用日数 | 補給数 | 補給回数 | 2018年 | 2019年 | 2022年 | 2023年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B-1 | 医療材料 | ラミネートコップ(100個入り) | 箱 | 4 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.5 | 0 | 0 | 0 |
| B-2 | 医療材料 | フェースマスク酸素マスク | 個 | 10 | 5 | 8 | 8 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-3 | 医療材料 | 注射針(21G) | 個 | 20 | 10 | 23 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| B-4 | 医療材料 | 注射針(23G) | 個 | 20 | 10 | 23 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| B-8 | 医療材料 | テルモシリンジ(10ml) | 個 | 15 | 8 | 7 | 0 | 0 | 7 | 1 | 4 | 3 | 0 | 0 |
| B-9 | 医療材料 | テルモシリンジ(20ml) | 個 | 15 | 8 | 7 | 0 | 0 | 10 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 |
| B-10 | 寄付品 | テルモシリンジ(50ml) | 個 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| B-11 | 医療材料 | テルフェージョン三方活栓 | 個 | 20 | 10 | 5 | 7 | 2 | 6 | 1 | 7 | 5 | 0 | 0 |
| B-12 | 医療材料 | サフィード延長チューブ | 個 | 20 | 10 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 5 | 0 | 0 |
| B-13 | 医療材料 | ナイロン縫合糸45" 20mm針付 | 個 | 6 | 3 | 6 | 1 | 1 | 0 | 0 | 7 | 1 | 0 | 0 |
| B-14 | 医療材料 | 滅菌手袋 61/2 | 袋 | 20 | 10 | 10 | 10 | 1 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-15 | 医療材料 | 滅菌手袋 71/2 | 袋 | 20 | 10 | 10 | 10 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B-22 | 医療材料 | JMS輸液セットJY-A841L | 本 | 35 | 20 | 49 | 29 | 1 | 19 | 1 | 8 | 5 | 0 | 0 |
| B-23 | 医療材料 | JMS小児用輸液セット | 本 | 10 | 5 | 29 | 10 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| B-24 | 医療材料 | テーピング(伸縮性) | 巻 | 3 | 2 | 3.1 | 0.9 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2.1 | 0 | 1 |
| B-25 | 医療材料 | テーピング(非伸縮性) | 巻 | 3 | 2 | 3.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-26 | 医療材料 | アンダーテーピング | 巻 | 3 | 2 | 0.1 | 0 | 0 | 0.2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| B-27 | 医療材料 | らくのみ | 個 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-28 | 医療材料 | 処置キット | 個 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-30 | 医療材料 | ディスポのメス | 本 | 10 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-31 | 医療材料 | 滅菌メディガーゼ(4つ折) | 袋 | 15 | 8 | 19 | 19 | 2 | 0 | 0 | 0 | 14 | 0 | 1 |
| B-32 | 医療材料 | 三角巾 | 枚 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-33 | 医療材料 | 舌圧子 | 本 | 50 | 25 | 96 | 6 | 4 | 50 | 1 | 11 | 10 | 0 | 3 |
| B-34 | 医療材料 | 伸縮性筒状ネット包帯手先、手首 | 巻 | 1 | 0.5 | 1.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-35 | 医療材料 | 伸縮性筒状ネット包帯膝、脚 | 巻 | 1 | 0.5 | 0.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-36 | 緊急BAG | エアウェイ(経鼻)7.0mm | 本 | 3 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-37 | 緊急BAG | エアウェイ(経鼻)8.0mm | 本 | 3 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-38 | 医療材料 | 尿取りパット | 枚 | 5 | 0 | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-39 | 医療材料 | 氷枕 | 個 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-40 | 医療材料 | ソフトシーネ(大) | 個 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-41 | 医療材料 | ソフトシーネ(中) | 個 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| B-42 | 医療材料 | 肋骨バンド | 個 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-43 | 医療材料 | 伸縮包帯ソフラスコレッチNo4 | 個 | 10 | 5 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| B-44 | 医療材料 | 駆血帯 | 本 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-46 | 医療材料 | 尿器男性用 | 個 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-47 | 医療材料 | 尿器女性用 | 個 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-48 | 医療材料 | テルモシリンジカテーテルチップ50ml | 個 | 10 | 5 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| B-50 | 医療材料 | ガーゼ小(滅菌メトル3号) | 個 | 30 | 15 | 27 | 27 | 5 | 0 | 0 | 9 | 10 | 0 | 2 |
| B-52 | 医療材料 | スタイレット | 本 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-53 | 医療材料 | 吸引カテーテル14Fr | 本 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-55 | 緊急BAG | 気管内チューブ(7mm) | 本 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-56 | 緊急BAG | 気管内チューブ(8mm) | 本 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-57 | 緊急BAG | バックバルブマスク | 個 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-61 | 医療器材 | ディスポ電極(心電図) | 個 | 40 | 20 | 48 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 整理番号 | 材料種類 | 衛生材料名 | 単位 | 初期値 | 発注点 | 開所時 | 総使用数 | 使用日数 | 補給数 | 補給回数 | 2018年 | 2019年 | 2022年 | 2023年 |
| B-63 | 医療材料 | 内診用ロールシーツ | 巻 | 2 | | 3.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-64 | 医療器材 | テルモ耳式体温計交換用プローブカバー | 個 | 20 | | 27 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-65 | 医療器材 | 替え電球(マグライト1、2) | 個 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-66 | 医療器材 | 替え電球(喉頭鏡・緊急ボックス) | 個 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-67 | 医療器材 | 心電図記録用紙(50m) | 巻 | r | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-68 | 医療器材 | 電極用クリーム | 個 | 1 | | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-74 | 緊急BAG | 経口エアウェイ | 個 | 5 | | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-76 | 医療器材 | 黄色い箱(中) | 個 | 5 | 2 | 4 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-77 | 医療器材 | 酸素ボンベA | 本 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0.5 | 0 | 0 | 0 |
| B-78 | 医療器材 | 酸素ボンベB | 本 | 1 | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.5 | 0.5 | 0 | 0 |
| B-79 | 医療器材 | 酸素ボンベC | 本 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| B-80 | 医療器材 | 酸素ボンベD | 本 | 1 | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-81 | 医療器材 | 酸素ボンベE | 本 | 1 | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-82 | 医療器材 | 優肌パーミロール | 箱 | 1 | 0.5 | 1 | 0.9 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-83 | 医療器材 | デルマエイド | 枚 | 30 | 15 | 30 | 30 | 1 | 0 | 0 | 5 | 2 | 0 | 0 |
| B-85 | 医療器材 | ステリストリップ | 枚 | 5 | 2 | 45 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | 0 |
| B-86 | 医療器材 | ソフトシーネ(指用) | 個 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-87 | 医療器材 | ソフトシーネ(上肢用) | 個 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| B-88 | 医療器材 | JMSシーツ | 個 | 5 | 3 | 5 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-89 | 医療器材 | 処置用持針器 | 本 | | | 8 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| B-90 | 医療器材 | 処置用ハサミ | 丁 | | | 7 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B-91 | 医療器材 | 消毒用鉗子 | 本 | | | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-92 | 医療器材 | 処置用ピンセット | 本 | | | 4 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| B-93 | 医療材料 | ニトリル手袋M（250枚） | 箱 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-94 | 医療材料 | ニトリル手袋S（250枚） | 箱 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.5 | 0 | 0 |
| B-95 | 医療材料 | スワブスティック | 本 | 30 | 10 | 30 | 10 | 1 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 1 |
| B-96 | 医療材料 | アルウエッティ | 本 | 3 | 0.5 | 1.5 | 1.5 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| B-97 | 医療材料 | 注射針（18G） | 本 | 10 | 3 | 20 | 4 | 2 | 0 | 0 | 10 | 13 | 0 | 2 |
| B-98 | 医療材料 | 針刺し防止機能付きサーフロー針(20G) | 本 | 10 | 5 | 49 | 50 | 1 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| B-99 | 医療材料 | 針刺し防止機能付きサーフロー針(22G) | 本 | 50 | 25 | 46 | 46 | 2 | 30 | 1 | 10 | 6 | 0 | 0 |
| B-100 | 医療材料 | オキシジェンカニューラ大人用フレアコネクタータイプ | 本 | 20 | 5 | 5 | 5 | 2 | 0 | 0 | 5 | 3 | 0 | 1 |
| B-101 | 医療材料 | ノンスリップシーツ | セット | 1.5 | 0.5 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| B-102 | 医療材料 | 酸素ボンベF | 本 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-103 | 医療材料 | ポケットマスク | 個 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-104 | 医療材料 | 舌鉗子 | 個 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-105 | 医療材料 | バイトブロック | 個 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-106 | 医療材料 | フルイドシールドマスク | 枚 | 75 | 25 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-107 | 医療材料 | 縫合針 | 個 | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| B-108 | 医療材料 | 縫合糸 | 個 | 6 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-109 | 医療材料 | ヘキシジン | 箱 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 |
| B-110 | 医療材料 | 心電図記録用紙（長方形） | 束 | 1 | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 |
| | 医療器材 | N95 | | | 30 | 66 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 0 | 0 |
| | 医療器材 | ガウン | | | | 55 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 0 | 0 |

# 処方および薬剤等の準備（調剤）時の注意事項

名古屋市立大学病院　薬剤部
早川智章（薬剤師）
蝶ヶ岳ボランティア診療班
2024 年度薬剤部門長　冨田翔（M3）

## ① A 材オーダー表を用いた処方および準備

《整理番号を用いた準備の指示》

スタッフが薬品名を聞き間違えることを防ぐ為に、医師は A 材オーダー表（2017 年度に新たに作成）に基づき「整理番号」および「商品名」の 2 項目でスタッフに指示を出す。

《医師の指示の復唱と、準備時のダブルチェックの徹底》

医師の指示を受けた薬剤等の準備者（以下準備者と略）は、医師に対して「整理番号」、「商品名」、「薬剤カテゴリ」を声に出して確認する。準備者は確認した後、薬剤配置表の「整理番号」に基づき準備する。

準備者は準備した薬剤および A 材オーダー表を、**必ず医師に示して医師に目視で確認してもらう。**

注射剤を調製する場合は、準備した薬剤を薬剤師・看護師などの注射剤を調製する医療スタッフ（以下調製者と略）に渡す。調製者は調製前の薬品と調製後の薬品を、**必ず医師に示して医師に目視で確認してもらう。**

⇒手順については次項の処方および準備手順参照。

## ② 準備に関わる行為の署名欄および確認チェック欄の追記

準備に関わった者が責任を持って仕事を果たす為に、カルテに準備者と調製者の署名欄を設ける。また最終確認者である医師のチェック欄（レ点チェック）も設ける。準備者と調製者は作業完了時に署名し、医師は医師確認欄にチェックする。

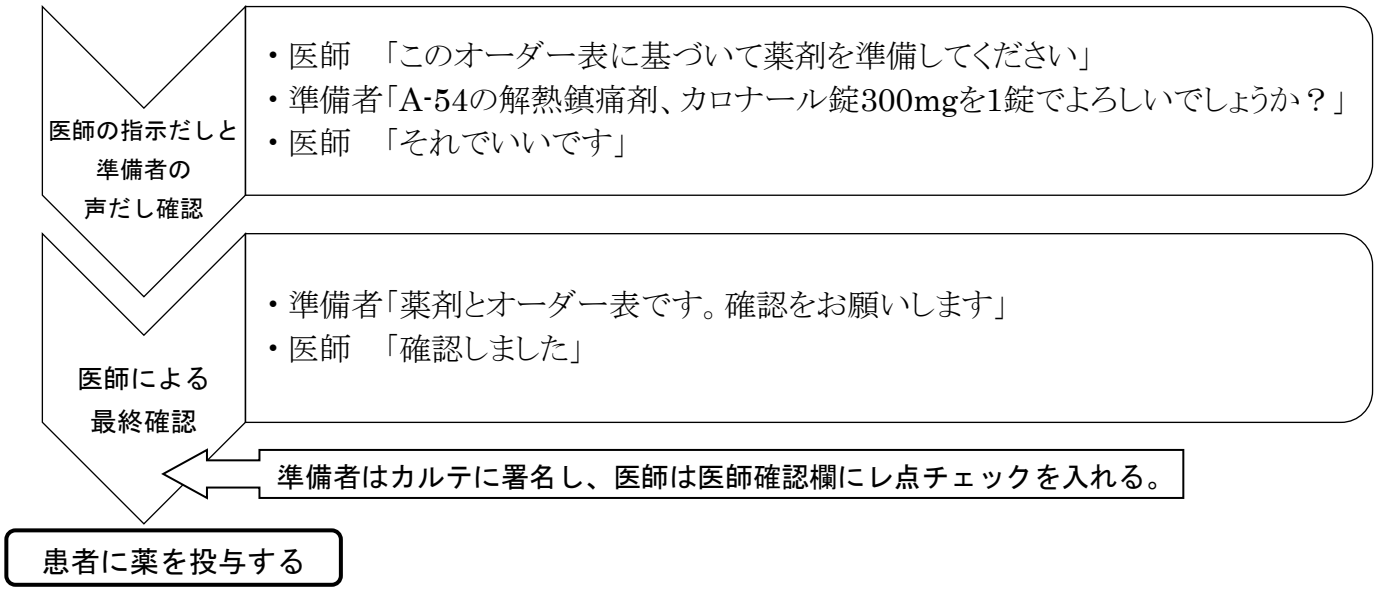
※医師が一人で診療を行う場合はこの限りではない。

※看護師・薬剤師が準備者である場合は調製者も兼ねてよい。

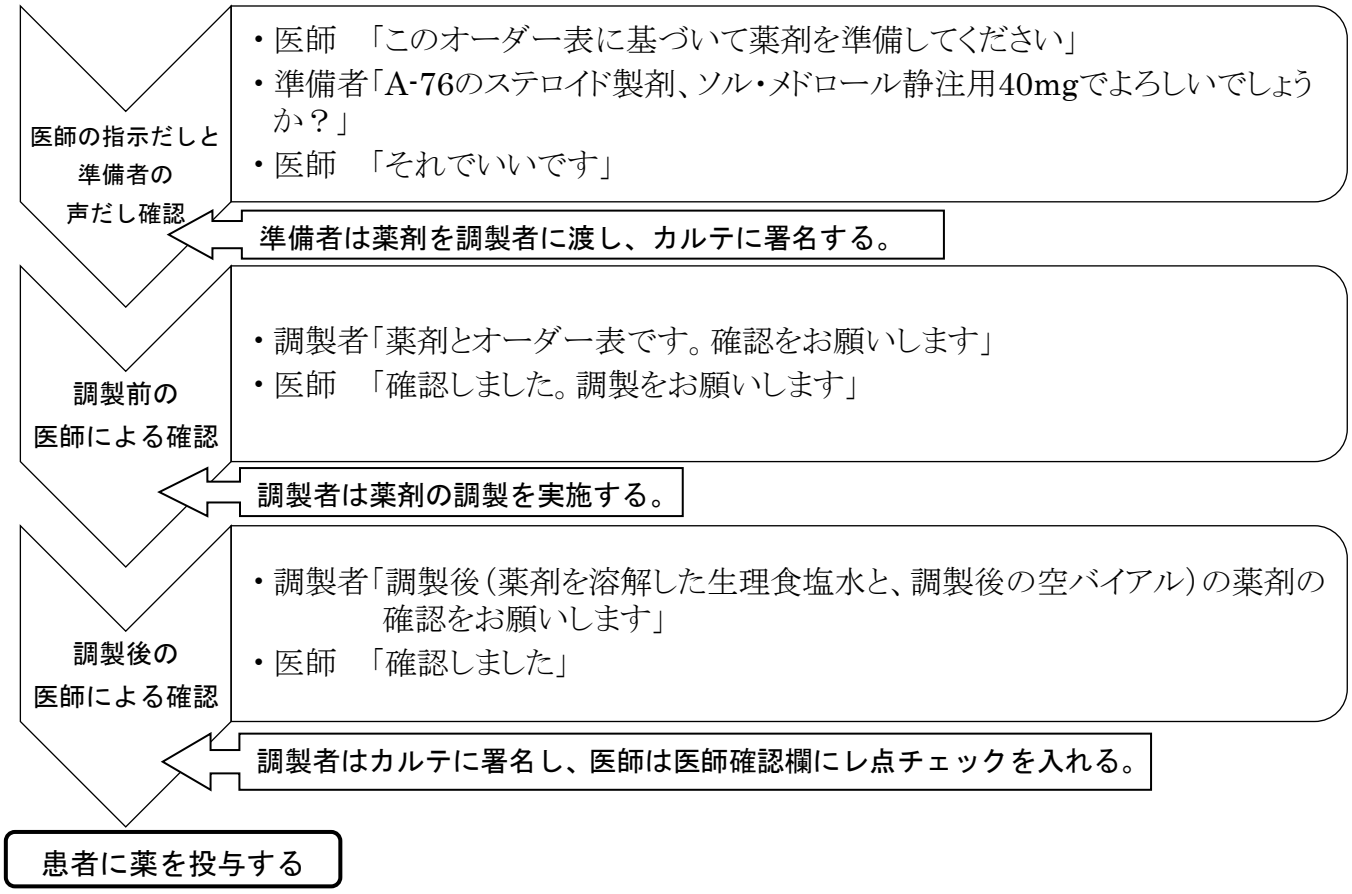
※以上の注意事項は A 材のみを対象としている。B 材・C 材・D 材を使用する際にこの手順を踏む必要はない。

○処方および準備手順

A）内服薬の処方および準備、医師による確認（外用薬もこの手順に準じる）




B）注射剤の処方および準備、医師による確認



# 酸素ボンベについて

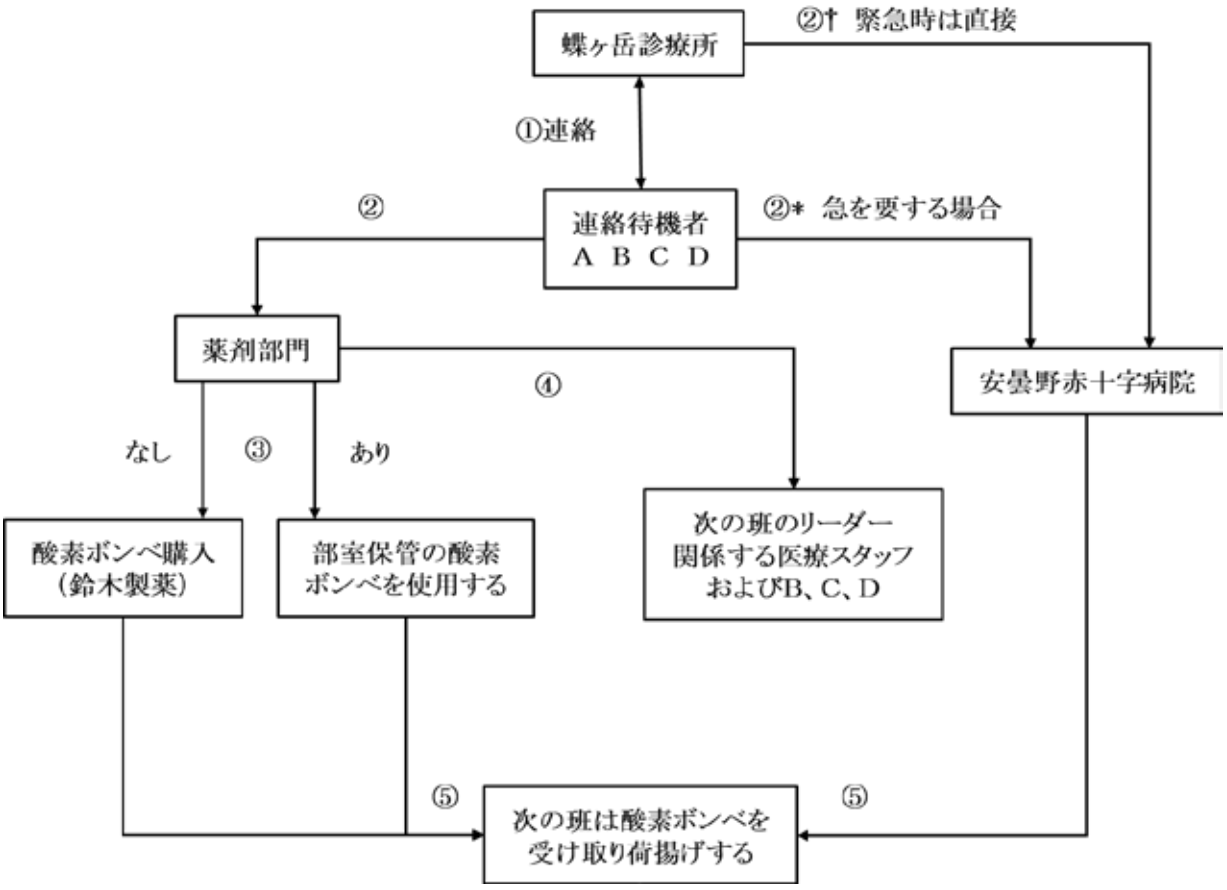
蝶ヶ岳ボランティア診療班
2024 年度薬剤部門長　冨田翔（M3）

[酸素不足に対する対応の経緯]
2016 年度の酸素ボンベ不足の事態を受け、2017 年度に行った対応を示す。
①酸素ボンベ新規購入およびメンテナンス時期の調整
[目的]
2017 年度診療所開所時に満タンの酸素ボンベが 5 本ある状態にする。また所有するすべての酸素ボンベのメンテナンスを開所期間とずらす（例えば 9 月にメンテナンスに出すことでその 3 年後の 8 月までは問題なく使用できるようにする）。
[経緯]
2017 年 6 月時点で診療班が所有する酸素ボンベのメンテナンス状況を以下に示す。
〈酸素ボンベメンテナンス状況〉2017 年 6 月時点

| | 前回メンテナンス時期 | 次回メンテナンス時期 | 保管場所と対応 | 残量 | 2017 年 11 月時点での保管場所と残量 |
|---|---|---|---|---|---|
| A | 2016 年 8 月 | 2019 年 7 月 31 日 | 部室、荷上げ | 満タン | 診療所、満タン |
| B | 2016 年 8 月 | 2019 年 7 月 31 日 | 部室、荷上げ | 満タン | 診療所、満タン |
| C | 2014 年 8 月 | 2017 年 7 月 31 日 | 部室、荷上げ | 満タン | 診療所、56L |
| D | 2014 年 8 月 | 2017 年 7 月 31 日 | 診療所、使用後荷下げ | 134L | 業者により回収済み |
| E | 確認できず* | 確認できず* | 診療所、使用後荷下げ | 満タン | 部室、満タン（2017 年 10 月メンテナンス済み） |

*診療所にあるため山頂報告を確認した結果を示す。
・酸素ボンベメンテナンスについて：酸素ボンベのメンテナンス期限は前回メンテナンスから 3 年後の 1 か月前までである。メンテナンス期限を過ぎた酸素ボンベについては充填の際にメンテナンスが必要になる。メンテナンスには約 1 か月かかる。
・使用順について：メンテナンス時期と残量を考慮しボンベ D、E、C から優先的に使用する。
メンテナンス状況、ボンベ使用順などを考慮した結果、開所期間中に酸素不足の事態に陥る可能性が考えられた。そのため酸素不足の予防として、ボンベを 1 本新規購入し（ボンベ F）開所時に満タンのボンベが 5 本ある状態にした。
また所有するボンベのメンテナンス時期を開所時期とずらすことで、開所期間中に充填に出したとしてもメンテナンスされることなくすぐに使用できる。そのため今年度よりボンベのメンテナンスは閉所後の 9 月以降に出すこととする。今年度はボンベ D、E について 2017 年 9 月にメンテナンスに出した。他のボンベについても来年度以降順次メンテナンス時期を調整していく。
②「酸素ボンベ不足への対応」の改定
2016 年度報告書に掲載したものから 2017 年度版として一部変更した。
[変更点]
フローチャート内の③について、2016 年度報告書に載せたものでは鈴木製薬からボンベのレンタルを行うことになっていた。しかし本診療班が所有している容量の酸素ボンベはレンタルを行っている会社がないことが分かった。そのため新規購入したボンベ F を部室保管とし、酸素不足時に素早く対応できるようにした。また部室保管のボンベが荷上げされ部室に無い場合などはボンベの新規購入を検討する。

○酸素ボンベ不足への対応




連絡の流れ

継続的な酸素投与が必要な際に、診療所にある酸素ボンベが 5 本のうち 2 本の残量がゼロになった。

①診療所から連絡待機者（※）に電話または Skype を用いて連絡。

（※）診療所から薬剤部門長（A）、運営委員長（B）、診療班代表（C）、診療所長（D）に連絡する。

②第一報を受けたものが薬剤部門の部員にその旨を伝達する。

②＊②†ただし酸素ボンベの名古屋から安曇野への輸送には時間がかかるため、それが間に合わない場合は連絡待機者（②＊）あるいは診療所から直接（②†）安曇野赤十字病院総務課に電話し酸素ボンベを借りる手配をする。時間外の場合は事務当直にその旨を伝える。

安曇野赤十字病院 代表 TEL:0263-72-3170

③薬剤部門は部室保管の酸素ボンベがある場合は、それを使用する。また、部室保管の酸素ボンベがない場合は、鈴木製薬（TEL:052-881-2745/1434:留守番電話による 24 時間対応）より酸素ボンベを購入する。目安として、購入の連絡をしてから在庫がある場合は 1～2 週間、在庫がない場合は、1～2 ヶ月かかる。

④薬剤部門が、次に出発する班のリーダー（ポーターの場合は最上級生）、関係する医療スタッフに連絡する。

⑤次の班が酸素ボンベを受けとり診療所へ荷上げする。

（安曇野赤十字病院より酸素ボンベを借りる場合は、診療所から連絡がきた時点で安曇野にいる学生、安曇野にいる学生がいない場合は診療所の学生が下山して荷上げする、ポーターの場合は 1 本のみ荷上げでもよい。その場合その次の班がもう 1 本を荷上げする）

薬剤部門は診療班所有の酸素ボンベが荷下げされ次第充填を手配し速やかに荷上げできるように進める。

**☆安曇野赤十字病院等への対応では、班員の安全を第一に考え天候不順、班員の体調不良などがある場合は無理をしないようにする。**

[2024 年度に行ったこと]
部室にて保管されていた酸素ボンベ C を診療所へ荷上げし、メンテナンス期限切れとなった酸素ボンベのうち前回のメンテナンス時期が最も古い酸素ボンベ A,F の 2 本を優先して部室に下ろした。酸素ボンベ A,F は残量があるため勉強会等での学生練習用とし、診療所で使用する新たな酸素ボンベ A,F を新規購入する。

〈酸素ボンベメンテナンス状況〉2024 年 9 月時点

| | 前回メンテナンス時期 | 次回メンテナンス時期 | 残量 | 2024 年 9 月時点での保管場所 |
|---|---|---|---|---|
| A | 2016 年 8 月 | 2019 年 7 月 31 日 | | 部室（学生練習用） |
| B | 2022 年 9 月購入 | 2025 年 8 月 31 日 | 満タン | 診療所 |
| C | 2023 年 11 月購入 | 2028 年 10 月 30 日 | 満タン | 診療所 |
| D | 2018 年 5 月購入 | 2021 年 4 月 30 日 | 満タン | 診療所 |
| E | 2017 年 10 月 | 2020 年 9 月 30 日 | 満タン | 診療所 |
| F | 2017 年 6 月購入 | 2020 年 5 月 31 日 | | 部室（学生練習用） |

[2025 年度の予定]
開所時に新規購入予定の酸素ボンベ A の荷上げを行い、1 班以降の正規班で同じく新規購入予定の酸素ボンベ F の荷上げを行う。したがって、診療所開所時には満タンの酸素ボンベ 5 本が診療所内に保管されている状態にする。また、使用状況に合わせて 2025 年 8 月末でメンテナンス期限切れとなる酸素ボンベ B と、既にメンテナンス期限切れとなっている酸素ボンベ E を閉所までに荷下げする。
酸素ボンベ E と同じく、既にメンテナンス期限切れとなっている酸素ボンベ D については、2026 年度開所時の診療所在庫を確保するため、使用状況に合わせて 2026 年度中に荷下げする。

（2024年8月撮影）

令和 6 年 7 月 29 日

# マダニ咬傷に対しクーパー剪刀(せんとう)を用いて切除した一例

医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター　研修医 2 年次　安藤詩音里
豊川市民病院　研修医 1 年次　土屋佑太
2 班　岩城俊亮(M6)　井手上駿(M6)　大岩篤史(M2)　山岡伊吹(M2)

【患者】

69 歳女性

【主訴】

ダニに咬まれた

【現病歴】

受診当日午前 11 時頃、登山中に右膝伸側正中にマダニ付着を自ら発見。ダニの口器が残らないようにダニごと絆創膏で保護し午後 1 時来診。

【身体所見】

GCSE4V5M6　独歩

BT 測定せず　HR86/min 整　BP144/118　RR16/min　$SpO_2$=91%r.a.

全身状態良好。右膝伸側正中に虫体付着あり、周囲 2 ㎝大に発赤を認める。その他皮疹を認めず。

【既往歴】

脂質異常症、右膝骨折(詳細不明)

【服薬歴】

ロスバスタチン

【アレルギー歴】

なし

【生活習慣】

喫煙:なし　飲酒:なし　登山歴:15 年

【処方・処置】

皮膚切開用器機なく、1%キシロカイン局注の後 18G 針で 5 ㎜大の円を描くように虫体ごと皮膚をくり抜き、クーパーで切除した。4-0 ナイロン糸で一糸縫合結紮し、止血を確認、ゲンタシン軟膏 3g 塗布し処置終了とした。マダニ感染症、日本紅斑熱のリスクについて説明、有事再診、下山後近医皮膚科の受診指示、紹介状を作成しお渡しし帰室とした。

【器具について】

本症例では先刃メスを用いて処置を行うのが適切であったが、診療所に在庫がなかったため 18G 針とクーパーを代わりに使用した。先刃メスについては、後日発注し山頂に荷上げした。

また、複数の医療スタッフの方々からマダニ咬傷において Tick Twister が有用であるとご指摘いただいた。使用する器具について、今後検討していく予定である。ご指摘いただいた先生方、ありがとうございました。

# 雲上セミナー記録

蝶ヶ岳ボランティア診療班
報告書部門　児玉奈緒（M3）

安全登山の啓発を目的として、私たちは蝶ヶ岳ヒュッテ内の食堂にて雲上セミナーを行っている。5年ぶりに再開したので報告する。

| 日付 | テーマ | 発表者 |
|---|---|---|
| 7/30(火) | 高山病 | M2　大岩篤史<br>M2　山岡伊吹 |
| 7/31(水)<br>8/1(木) | 高山病 | M2　大西虹輝<br>M2　奥瀬遙香 |
| 8/2(金)<br>8/3(土) | 高山病 | M2　大橋遼誓 |
| 8/5(月) | 高山病 | M2　長谷川楓馬 |
| | 蝶ヶ岳ボランティア診療班について | M4　原田悠希 |
| 8/7(水)<br>8/8(木) | 高山病 | N2　杉浦愛純<br>M1　加藤初彩 |
| 8/10(土) | 高山病 | M2　世古口侑己 |
| 8/14(水) | 高山病 | M1　今井亮太 |
| | クマについて | N3　川村芽生 |
| 8/18(日) | 高山病 | M2　近藤尊彦 |

【総括】

高山病についてのセミナーを計 9 回行った。いずれのセミナーも、症状・対応・予防を中心に高山病の概要を説明し、あわせて診療所の存在を周知した。約 20 分間のセミナー終了後に学生が参加者の $SpO_2$ を測定し平地との違いを説明した。

【参加者からの質問】

以下に今年度挙がった質問を記載する。

<薬>　Q.痛み止めの内服は高山病に影響するか。
　　Q.高山病の薬はあるが、それを予防的に飲めば高山病を避けられるのか。
<水分>　Q.なぜ水分不足が高山病の原因になるのか。
<酸素>　Q.生あくびが出たら高山病になっていると思うが、その認識は合っているか。
　　Q.酸素ボンベの効果はどのようなものか。
<その他>　Q.診療所ではどのような症状が多いのか。
　　Q.高山病予防のために普段からできることはあるか。

# 予防的介入活動報告

蝶ヶ岳ボランティア診療班
2023 年度学生代表　藤井祐宇(M3)　9 班班員　川村芽生（N3）

蝶ヶ岳ボランティア診療班では、2005 年に起きた高校生の死亡事例*をきっかけに「予防的介入活動」と称して一般登山者に対して高山病の予防啓発活動を行ってきた。2007 年から蝶ヶ岳ヒュッテでの雲上セミナー参加者を対象としたアンケート調査を行い、予防的介入活動の効果の評価や今後の方針に活かしている。2016 年は蝶ヶ岳ヒュッテ内に高山病予防啓発ポスターを掲載した（図 1）。2017 年から三股登山口でポスター（A3 サイズカラー、ラミネート包装）を 1 枚掲示しており、2018 年以降は計 2 枚掲示している。2018 年は予防的介入カードを改訂し、より手にとってもらいやすいカードとした（図 2）。

2023 年は、4 年ぶりに学生が参加する診療活動再開であり、感染症対策と診療活動サポートに注力するという判断から雲上セミナーを行わず予防的介入カードを配布した。

2024 年は雲上セミナーを再開した。例えば、9 班は（8/14～8/15）は、1 日目の夕食後に談話室にて雲上セミナーを行った。高山病とクマ対策をテーマとし、セミナー後はパルスオキシメーターでの血中酸素飽和度測定会を行った。高山病の主な症状や予防について説明し、クマ対策では遭遇した時に取るべき行動とクマ除けグッズを紹介した。参加者から多くの質問をいただき、とても熱心にセミナーを聞いてそこで学んだことを自ら行動して活かそうとしている参加者の姿勢を感じた。雲上セミナーは安全登山の啓発に意義があると考えられる。

*酒々井先生（診療班代表）からの補足コメント：本事例の詳細については次の文献をご参照ください。田智紀他「蝶ヶ岳から長塀尾根を下山中に標高 2,350m 付近で死亡した 16 歳男性について」登山医学 33: 139-152, 2013.

尚、原田先生（医師）は日本大学医学部徳沢診療所の管理運営を長くされており名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所とは患者下山後のフォローや学生の交流で以前より大変お世話になっています。特に、三股登山口へのアクセス道路が崩落した 2018 年は学生班の登山は全て上高地経由の徳沢～長塀ルートとしたので、日大診療所のすぐ隣にある登山口を利用しました。私たちにとっては極めて重要な連携施設となっています（詳細は 2018 年度報告書 p24～41 と本学ホームページの「社会貢献」参照）。

# 高山病について

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

**1. 登山中の水分量と高山病**

高山病では水分量もその発症に関係していることが私達の研究で分かってきました。例えば、体重50kgの人が6〜7時間かけて蝶ヶ岳を登る場合は1.5から2L程度の水分摂取が推奨されます。

十分な水分摂取にも心がけて高山病予防につなげましょう。

**2. 高山病の症状**

高山病には、**頭痛**や**吐き気**以外にも、**食欲不振**、**疲労感**、**めまい**、**息苦しさ**、**不眠**などの症状があります。心配な症状があれば医師の診察を受けましょう。

蝶ヶ岳ボランティア診療班では、登山客の皆様を対象としたアンケートを行っています。気軽にお答えいただければ幸いです。

図１　高山病予防啓発ポスター

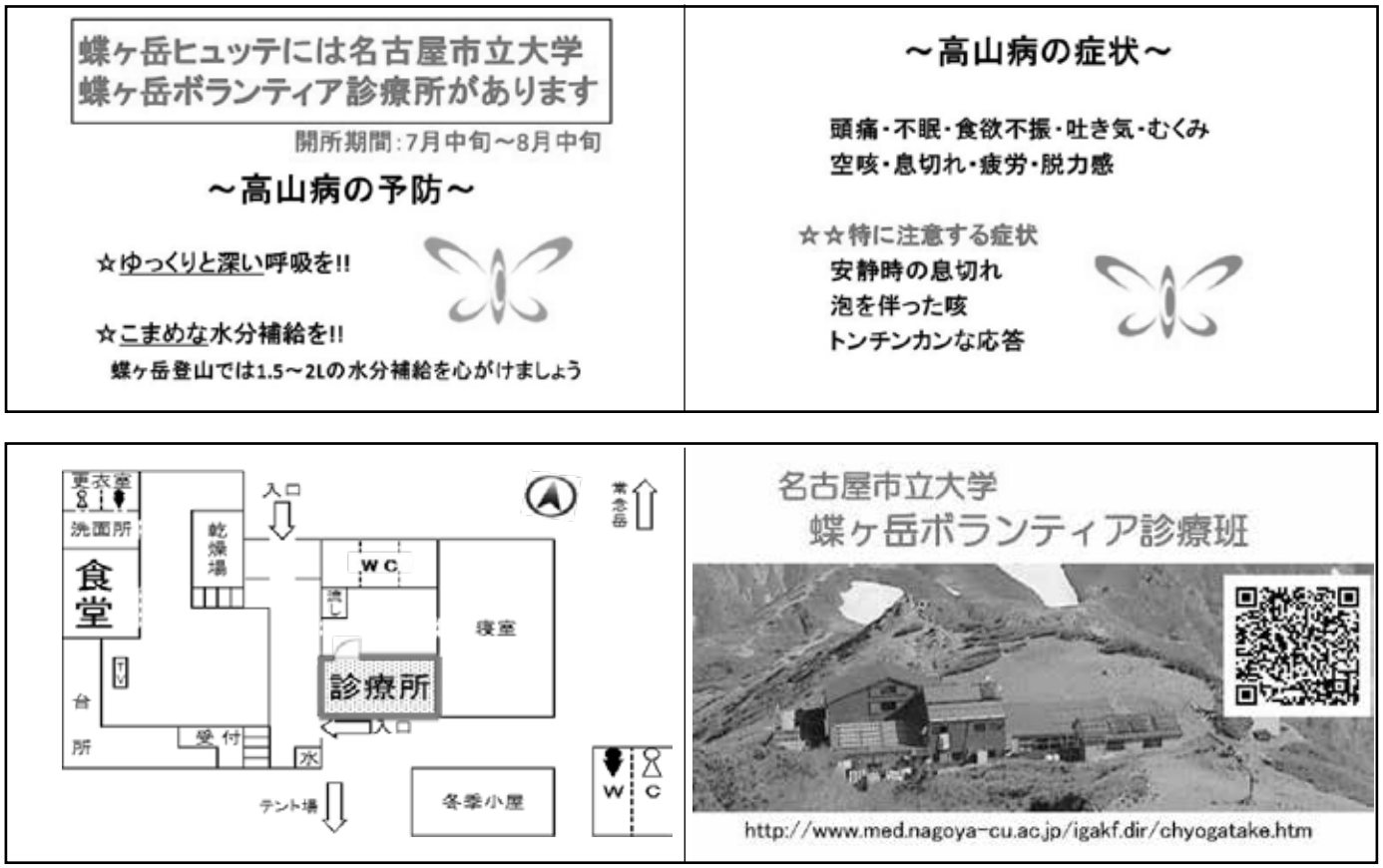



図２　予防的介入カード（上：内側、下：外側の二つ折りカード）

# 参加者感想文

【15 年目の蝶ヶ岳診療所】

午後 6 時にほりで一ゆ着、翌朝登山（単独）、三股駐車場で長野県警察本部山岳救助隊員 2 名と出会い挨拶、同日夕に救助事例（登山者 2 名中 1 名が転倒頭部裂傷にて朝出会った隊員 2 名と共に下山、登山者 1 名は偶然通過した中村オーナー様と一緒に登山継続ヒュッテ着）、歩荷した今日の治療指針設置、午後 8 時にオーナー様と食宿泊費確認その他、長塀～徳沢～バスセンタールート確認、日大原田先生に挨拶と報告書手渡し、明神から左ルート不可（全体メイル済み）、雨、ほりで一ゆ着泊、翌帰名。

（診療班代表　酒々井眞澄）

【準備班】

雨に降られて散々でした。

（医師　今村篤）

平日も診療を行うというコロナ後の本格的な活動再開ということもあり、敢えて準備班の活動時期に参加させていただいた。コロナ前までの 20 年余に培ったノウハウにより診療器材の最適化が進んでいるが、その一方で、不要となる備品も診療所の押入に溜まっていた。山岳診療のプロである榊原嘉彦先生にご助言いただきながら、不要と思われる物品は思い切って荷下ろしすることとし、準備班、1 班の皆さんにはご迷惑をおかけした。学生の皆さんの頑張りに、診療班の再出発に手応えを感じた今年の夏であった。

（医師　浅井清文）

【1 班】

研修医 1 年目以来ブランク 5 年での単独登山はシンプルに不安だった。須佐渡に着いたのが当日深夜 3 時だった時点でこれはもうダメだと確信していた。壮行会で少し話しただけの学生さんとの距離感にも実は不安しかなかった。なんとか登りきった達成感と疲労に任せて、診療所の真ん中で床に突っ伏して寝たのが逆に良かったのかもしれない。弾丸日程だったがお陰様で終わってみれば楽しいばかりの 2 日間だった。また来年もきっと登ろう。

（医師　佐々木謙）

久々の蝶ヶ岳ボランティア診療班は医師不在期間で緊張しましたが、山頂では平穏な時間を過ごしました。ありがとうございました。学生もヒュッテも不慣れな方が多い中、1 班の皆さんは診療活動や雲上セミナーなどの開催など的確に行動しており、感心しました。山頂での活動を経験して、改めて診療活動できることが当たり前ではないことを実感しました。

（理学療法士　藤堂庫治）

（2024 年 7 月撮影）

【2 班】

暑かった。生ぬるい雨の中を登った。高温高湿。夜間換気窓を閉じると寝苦しかった。稜線には熱風が吹き上がってきた。半袖短パンで過ごしたので日焼けしてより暑くなった。クマがいたが黒かったので、さぞ暑かろう。ブロッケンはそうでもなさそうであった。マメウチに滑落して歩行困難の人がいた。声をかけたが何とかするとのこと。下山後遭対協の人に伝えたら、覚知はしているとのことだったが詳細を聞かれた。その後も暑かった。

（医師　岡嶋一樹）

就職して 3 ヶ月目にして、スタッフとして参加させてくださいましたことに、お礼申し上げます。

5 年ぶり 3 回目の参加でしたが、これまでとは異なる立場ということもあり、とても新鮮な夏山であると同時に、とても学びのある 3 日間でした。
また診療班に貢献できる日まで、勤務地にて研鑽を積んで参ります。
お世話になりました先生方、スタッフの皆様、診療班員の皆様、ありがとうございました。
（医師　土屋祐太）

スタッフとして初めて参加させていただきました。大先輩方のサポートと、頼もしい学生さん達に支えられて、無事診療をやり遂げられました。ありがとうございました！
（医師　安藤詩音里）

【4 班】
今年も参加できてよかったです。今回は、鍋冠山経由で行きました。これで蝶ヶ岳に行く登山道メインコースを全部やったことになりました。ヒュッテの方々が若返られ、新鮮な感覚でした。診療所はいろんな方が見える点で、今の診療の延長のような気がしました。ただ、学生の皆さんのルーチンワークがあるのがある意味で興味深くみていました。退院された方の診療がおわった後、やってこられた方と学生の皆さんがゆっくりお話しできると良いかなと思いました。来年も参加できるよう体を鍛えたいと思います。また、お会いできますように！
（医師　早川純午）

まずは、今年度の活動にご尽力された先生方、スタッフの皆さま、学生の皆さま、すべての夏山関係者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。コロナ禍を経て通常開所され参加できる喜びを実感します。
山の雑誌の診療所特集で活動を知り初めて参加させていただいてから、毎年の夏山に蝶ヶ岳がありました。ここ数年はなんとなく調子の上がらない夏を過ごしていましたが、今年は山頂で早川先生や安東さん率いる 4 班の学生さんとご一緒でき、下山後も日々の仕事や生活のモチベーションがグッとあがりました。
好きな山でなんらかの恩返しをしたいと思っても一個人では何もできません。活動に参加することで社会貢献を続けられたらと思っています。この活動が継続できますよう願っています。
（保健師　鈴木美帆）

【6 班】
コロナ禍後初めての診療所参加は定年退職後となってしまいました。大学を離れ，また診療所の運営方法も様変わりしていて、うまく適応できるか若干不安だったのですが、幸か不幸か患者さんもそれほど多くなく、天候にもまずまず恵まれ、大過なく、山上での充実した日々を送ることができました。なにより、学生さんたちの溌剌とした姿や活動を目の当たりにできたことを嬉しく思います。診療版の今後ますますの発展を祈念致します。
（医師　青木康博）

（2024年8月撮影）
【7 班】
自炊と幕営技術はサバイバル技術の基本だ。70 歳なった今も、私はテント生活が好きだ。時にはテント無しで、星空を眺め、星空を見ながら寝る。その時、自分が宇宙に浮かんでいることを感じる。諸君も、山小屋を飛び出して外で寝たらいいじゃない？
（医師　三浦裕）

昨年から診療所長を拝命し、自分としては 4 回目の診療班参加でした。4 回目にして初めての快晴で素晴らしい景色を堪能できました。学生の問診を見守り、コロナ後初めて再開された学生による雲上セミナーも拝聴しました。山小屋のスタッフとして働いている学生もいて多くの仲間と過ごす楽しい時間でした。
（医師　服部友紀）

この度は7班の学生さんは山に興味がある子たちもおり、仕事でもお世話になっている服部先生や早川先生ともご一緒でき、恵まれたメンバー構成でした。活動としては、連休中でたくさんの方が山行されていましたが、患者さんが少なく大きな事故もありませんでした。雲上セミナーもたくさんのお客さんが聞いておられており、安全登山への関心の高さを感じることができました。
今年も診療所に参加させていただきありがとうございました。
（理学療法士　桜井春香）

6 年ぶりの蝶ヶ岳診療所に参加したが、相変わらず山の風景は綺麗でよかった。一方で、医療についてはこの 6 年間で大きく変わった。COVID-19 に始まり、昨今の薬品供給問題は、病院だけではなく診療所の運営にも大きな影響を出している。色々と大変な診療所の再出発となったが、ここが正念場。新たな蝶ヶ岳診療班が作り上げられるように、学生と共に頑張りたい。
（薬剤師　早川智章）

【9 班】
台風で飛んだ昨年の山行を偲びつつ参加した今年の夏山は、スタッフとして登る初めての夏山でした。凄まじい緊張と眠気を噛み殺して気丈に振る舞う研修医を、班員は学生同志かのように温かく迎えてくれました。辛い登山をともに乗り越え、山頂活動に勤しんでいるうちに、緊張は消えてなくなりましたが、同時に今年の夏山活動も台風で飛んでいきました。翌朝のことはショックであまり覚えていません。このペースならば来年は山頂で 2 晩を過ごせるかなとぼんやり考えています。最後に、9 班班員をはじめ活動に関わった全ての方々に感謝申し上げます。
（医師　田中秀和）

【整理班】
今年は整理班の時期に参加させていただきました。台風の影響は受けたものの無事に登ることができ、懐かしい先輩との再会や整理活動を頑張る学生たちの姿を見られて楽しかったです。幸いなことに患者さんはゼロで穏やかな日々でした。スタッフとして登るのは、学生とはまた違って楽しいものです。自分もいつまで参加できるか分かりませんが、スタッフ側の参加も活発になると診療班もより一層盛り上がるのかなあと感じた夏山でした。
（医師　畑中景）

今回初めて診療スタッフとして参加させて頂きました。以前から坪井先生に山の診療所へ連れて行って欲しいとお願いをしており、コロナ禍を経てようやく実現するとこができました。私が大好きな山で、私の職業を活かせる機会を与えて下さった全ての方に、この場を借りて感謝申し上げます。
私が滞在させて頂いた間で、診療活動の機会こそありませんでしたが、班員の皆様と交じり、雲上セミナーをはじめ診療所の活動や、この活動がどのように支えられているかの一端を知る事ができ、改めて山の上にある診療所の意義を学ぶ事ができました。
登山は全て自己責任が原則ではありますが、それでもやはり、山の上に医療人が居るという安心感は、登山者にとっても、それを守る山小屋にとっても非常に大きなものがあると思います。この活動がこれからも多くの登山者の支えとなり、歴史ある蝶ヶ岳ボランティア診療所として末永く続く事を信じて止みません。文末になりましたが、今回私を受入れて下さった諸先生方、並びに学生班の皆様方へ心より感謝申し上げます。
（看護師　酒井田正克）

（2024年7月撮影）

# 学生感想文

【準備班】

私は準備班の班長として夏山活動に参加しました。今年は昨年からの変更点が多く、初回の活動ということで身が引き締まる思いでした。休憩時間にはコーヒーやお菓子をいただきながら先生方の興味深いお話を伺い、とても有意義な時間を過ごしました。診療所内の整理や薬剤のチェック、機器の点検も順調に行うことができました。特に心電図の点検の際、浅井先生の心電図を測定した経験が印象に残っています。

（M3 藤井裕宇）

山頂での活動は思っていたよりも大変でした。特に患者さんの症状に応じて柔軟に対応することが難しかったです。また、天候が 3 日間とも悪く、あまり景色を楽しめませんでした。来年は素敵な星空やご来光を見られるように、そして、この経験を活かしさらに良い活動ができるように頑張ります。

（M3 髙宮一真）

今年は 1 年生に引き続き、2 回目の準備班として登りました。天候には恵まれず、登ろうとした際に突然の雷雨に襲われて山頂での星空を見ることはできませんでしたが、最終日にはなんとかご来光や富士山を見ることができました。また、男子 4 人の班構成で、独特なノリもあり楽しかったです。準備班の仕事や診療活動については、自分の勉強不足な点を多く感じ、来年以降はその反省を踏まえて活動していきたいです。

（M2 澁谷春輝）

初めての夏山登山だったのですが、班の方々の体力がありすぎてついていくのがとても大変でした。山頂では薬剤カウントなどの業務がたくさんあり、とても忙しかったですが、その中でも先輩や同期だけでなく、普段あまりお会いしないような先生方と交流することができ、多くの貴重な話を聞くことができました。また、朝早く起きて見たご来光や山脈の景色はとても綺麗で感動しました。このような貴重な経験をする機会をくださり、ありがとうございました。

（M2 大井晶斗）

【1 班】

僕にとって 2 度目の夏山活動でした。去年は 2 年生で何の役職もなく気楽に活動に取り組めたのですが、今年は 3 年生ながらに責任のある班長という役目を任され不安でした。幸い、班は優秀な後輩に恵まれ、今思い返すとそんなに不安になる必要もありませんでした。また、医療スタッフの方々には診療活動の際に様々なアドバイスをいただきました。ありがとうございました。無事に夏山を終えることができて良かったです。

（M3 伊原啓太）

昨年は台風で中止になってしまったため、私にとっては初めての夏山の活動となりました。今までの、蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動として参加してきた勉強会等の経験が実を結んだ、貴重な時間となりました。今までの学びが実際に役立つ場面に直面し、喜びを覚えると共に、自分の力の及ばぬ多くの点に気づき、活動へのモチベーションを高めることに繋がりました。

（M3 古田優菜）

今年度が初の夏山となり、不安も多くありましたが、無事にやり遂げることが出来てほっとしています。山頂では思っていたより多くの仕事があり、まだまだ勉強不足を感じたので、来年度以降に活かしていけるよう活動していきたいです。

（M2 重田篤希）

実際に診療所で活動してみると、勉強会や事前準備をしていても自分の未熟さを感じることが多く、改善して今後に繋げていきたいと思いました。しかし、予防的介入などから診療所に興味を持ってくださる方も多く、学生だからこそできることもあると感じました。また、3 泊 4 日の山頂生活は初めての経験で、天候にもそれなりに恵まれ、山の素敵さにも触れることができ、思い出に残る夏山活動になりました。

（M2 近藤優衣）

【2 班】

学生最後の夏山、非常に実りあるものになりました。予想以上に多くの患者さんが来院され、ある程度緊急性がある場合の対応やルートを取った上での処置など、実際に診療所で幅広く経験できとても刺激的でした。スピーディに対応される研修医の先生方のお姿を見て来年から同じようにできなければならないという恐怖を覚えながらも、これからもっと医学の勉強を頑張ろうと改めて強く思いました。最後になりますが、開所にあたり頑張ってくれた後輩の皆、お忙しい中ご協力いただいたスタッフ皆様、誠にありがとうございました。

（M6 岩城俊亮）

他では経験できないようなことが数多くあって、非常に充実した夏山になりました。山頂へ行ってみて初めて見る業務が多くあったので、次に登った時に自分が後輩を引っ張ってその仕事をこなせるか心配でした。

（M2 山岡伊吹）

登山では想像以上に階段が多く、とても体力を削られた。そんなヘトヘトの状態で山頂に着くと、息つく暇もなく患者さんが来て、すぐに医療面接やバイタル測定を行ったが、私自身の疲れや初めて実際の患者さんに対して行うということもあり、十分な出来とは言えなかった。全体的に、一緒に登った先輩方や医師の先生たちにかなり助けられた夏山だった。上手くこなせた部分は大切にし、反省すべきところはしっかりフォローしていこうと思う。

（M2 大岩篤史）

【3 班】

2 回目の蝶ヶ岳で、今年は上高地-徳沢ルートを使いました。徳沢ロッヂ、日本大学医学部徳沢診療所、大滝山荘、と話だけでしか知らない場所に直接伺うことができ、改めて多くの方々との繋がりがあって診療班は成り立っていると感じました。診療班に関わる全ての方々に感謝いたします。復活した雲上セミナーは大盛況で、登山客の方々とのコミュニケーションを通して学生にも出来ることがあると強く感じました。今年は満点の星空も班員みんなで眺められたので大満足です。診療班とは関係無くなりますが、私は平湯温泉で班員と別れを告げた後、名市大医学部 4 年の矢野坂君と合流し、翌日再び蝶ヶ岳に登りヒュッテスタッフのバイトを約 2 週間しました。1 番の思い出は、まかない当番が作った夜ご飯をスタッフ皆で机を囲んでワイワイ食べる時間です。雲の上で素敵な仲間と共に仕事をし、かけがえのない時間を過ごせたことは一生の宝物です。今後も誰か同じようにスタッフを経験する後輩が続いてくれたら嬉しい限りです。

（M4 高橋航太朗）

初めての夏山参加、また唯一の上高ルート使用ということで不安も多かったですが、多くの方に支えていただき無事診療活動を行うことができました。雲上セミナーも再開し、登山客の方々ともたくさん関わることができたことで診療所の意義を改めて考えるきっかけになりました。山頂では日の出、日の入、星空、大パノラマ、ブロッケン現象などそこでしか味わえない景色を堪能することができ、忘れられない思い出になりました。学年最後の夏山、非常に実りあるものになりました。

（N4 白岩葉菜）

初めて参加しましたが山頂での診療活動は有意義なものでした。

（M2 大西虹輝）

初めて夏山の活動に参加させていただきました。普段の勉強会で学んでいることが実際の診療活動につながっているということを実感しました。また、前泊地の徳沢まではあいにくの大雨でしたが、山頂では天気に恵まれ、綺麗な景色をたくさんみることができました。この経験を今後に活かしていきたいです。ありがとうございました。

（M2 奥瀬遥香）

（2024年8月撮影）

【4班】

1 年生以来、2 回目の夏山だった。前回は最低学年、今回は最高学年としての参加で、感慨深い思いを抱いた。山頂ではひたすら薬剤カウントをしたので、4班の後輩たちは来年度以降薬剤カウントで無双すること間違いなしだろう、多分。また、下山後に部室に行き、熊の対策資料を考えたのももはやいい思い出だ。頼れる同期や後輩がいたことに感謝しかない。来年もぜひ夏山に参加できたらと思う。ありがとうございました。
（M6 安東知里）

夏山メンバーや天候にも恵まれ、無事に活動を終えることができ、充実した日々を過ごせました。大自然の中での5日間は様々な自然に触れ、毎日が心に刻まれる体験となりました。雲上セミナーを通じて多くの方々と話を交わし、温かみのある交流ができたことが印象的です。今後も蝶ヶ岳ボランティア診療班として活動が維持できるよう取り組んでいきたいと強く感じた夏山生活でした。携わってくださった皆様に、心から感謝いたします。
（M3 武田拓朗）

初参加でしたが、多くの学びのある夏山でした。下界ではどれだけ学ぼうとしても、実地に沿わないことをしっかり理解できたと思います。山頂で「あまりたいしたことではない」と仰っていた患者さんがいましたが、足を引きずっていることからかなり痛いのだろうと医療スタッフさんが見抜き、その後も積極的に声をかけると言う場面がありました。ボランティアの診療所にはっきり痛くて仕方がないと言うのは難しいという当たり前のことにも、夏山に参加しなければ気付くことができませんでした。来年以降もこのような学びを得るため夏山に参加したいです。
（M3 細田桃花）

今年が初めての夏山でした。わからないことが多くあり、先輩方や先生方に多くのことを教えていただけて本当にありがたかったです。なかなか経験できないことを経験させていただき、夏山に参加して本当に良かったと思いました。来年も登りたいと思うので、今年学んだことを活かしたいです。
（M2 大橋遼誓）

【5班】

今年は 5 班のリーダーとして夏山に参加しました。自分がこの班の責任者だと思うと緊張感があり、登山の安全や山頂での仕事の準備など去年そこまで気にならなかった様々なことを意識する夏山でした。途中熊の目撃情報や台風など、今年もイレギュラーな事態がしばしば起きましたが、無事活動を終えることができホッとしています。来年はただ夏山をこなすだけでなく、これまでの経験を下へと伝えられたらと思います。
（M4原田悠希）

最終学年で初めて夏山に参加させていただきました。コロナ禍のブランクがあったにも関わらず以前のような活動が戻りつつあるのはコロナ禍でもコツコツと準備を進めてくださったスタッフの皆様、部員の皆のおかげです。診療活動だけでなく、活動期間を通して夏山を堪能することができ、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。卒業後もどこかのタイミングで蝶ヶ岳に登れたらいいなと考えております。
（M6 伊藤理子）

初めての夏山ということで、全てが円滑に進んだわけではなかったですが、日常では経験できない貴重な体験ができて良かったです。今年の夏山で学んだことを来年以降にも生かしたいです。
（M2 長谷川楓馬）

【6班】

学生最後の夏山は、直前で二度登りになったり、出発前日までクマ対策を考えたりと出発前から盛りだくさんでした。そんな中で迎えた夏山でしたが、頼れる班員に支えられ、無事にお仕事をこなすことができました。雲上セミナーでは、後輩たちの成長を感じることができてとても嬉しかったです。また、山頂では天気に恵まれ、絶景を堪能することができました。またとない素敵な経験をさせていただき、ありがとうございました。
（M6 井手上駿　※2班でも活動に参加）

4 年にして初の夏山となりましたが、最高の思い出となりました。御来光をはじめ、満点の星空やライチョウをこの目で見ることができました。登山・下山中は足よりも口が動いていたのではないかと思うほどにずっと喋っていて、おかげでクマにも遭遇することなく笑い声の絶えない山中でした。診療では分からないことも多く先輩の教えや後輩の手助けなくては成り立たなかったと思います。班員には本当に感謝しています。青木先生ともたくさんお話しできて、大変楽しく、そして勉強になる時間でした。また来年も登りたいです。
（M4 若杉大路）

山頂では意外に多くの人が体調不良に悩まされており、診療所の存在は登山をする人たちにとって安心できる心の支えになっているかもしれないと感じました。雲上セミナーなどでお話をしたことで診療所を知って、来診された患者さんをよく見かけて、医療を必要としている人に診療所が知られていないと実感することも多かったので、診療所の存在自体を知らせることも必要なことだと分かりました。
（N2 杉浦愛純）

経験が浅い中、登る機会をいただき感謝しております。山頂では、患者さんの年齢や体調に合わせた臨機応変な対応に感動しました。診察中に必要な物を予測し、準備することの大切さも学び、非常に貴重な体験となりました。登る前は不安でしたが、先輩方の温かいサポートのおかげで充実した山頂での 3 日間を過ごすことができました。
（M1 加藤初彩）

【7班】

去年に引き続き夏山班員として参加させていただき、今年は班長という役割をいただきました。台風の影響による一時閉所が急遽決まるなど、様々なことがありましたが、班員や先生方のおかげで乗り切ることができました。ありがとうございました。振り返ると反省点も多く、ご迷惑をおかけしたこともあったと思いますが、昨年以上に診療班の活動への理解も深まりました。この経験を、来年度以降に活かしていきたいです。
（M4 鈴木智央里）

昨年は台風で登山できませんでしたが、診療班の活動にお力添えをいただいた皆様のご尽力があり、今年、診療班員として初めて登ることができました。誠にありがとうございました。想定外のこともあった中、先生方にご指導いただき、学生 3 人で力を合わせ、臨機応変に対応することができました。天候にも恵まれ、肌で感じた雄大な自然はかけがえのない思い出になりました。今回経験したことを活かし、診療班に貢献していきたいです。
（M5 久松脩典）

初めての 2000 メートル級の登山で大変だったが、山頂で過ごした 2 日間は天気も良く、先輩との交流も深めることができて楽しかった。
（M2 世古口侑己）

【9班】

私は 9 班班長として、昨年に続いて参加いたしました。前日から大雨警報が発令され、当日も大雨の中登山し、台風のため翌日下山するといった、天候に恵まれない夏山でした。そのため登山客は少なく、来診もありませんでしたが、閉所に備えた作業に追われました。予期しない診療活動でしたが、班員全員であらゆる可能性を考えて、出来ることを行いました。班長の私以上に貢献してくれた班員と医療スタッフの方々に感謝申し上げます。
（M4 水野太陽）

私自身 6 年にして初めての夏山であり、参加を渇望した 5 年間を振り返り素直に喜びを感じておりました。採用試験が終わったその足で前日集まりを行ったり、台風の進路に不安を覚えたりしつつも、急遽対応してくださったほりでーゆ～様始め沢山のご縁や班員達のおかげで、大雨の中でも無事に活動を終えられたと実感しております。お世話になった全ての方々に心より感謝申し上げます。今後とも診療班をよろしくお願い申し上げます。

（M6 木村颯花）

天候が悪く登山者が少ない日だったので、来診は一件もありませんでしたが、雲上セミナーを通して高山病の啓発活動やクマ対策の説明は行うことができました。参加してくださった登山客の方が興味関心を持ってたくさんの質問をしてくださったので、時間をかけて準備した甲斐があったなと感じました。「活動ありがとう。頑張ってね」という言葉をいただいた時は、活動してきて良かったなと感じられる瞬間でした。

（N3 川村芽生）

今回は 1 年生ながら夏山に登らせていただきありがとうございました。雨の中の登山でしたが、9 班の医療スタッフが田中秀和医師であったためとても賑やかに登ることができました。台風のため一泊二日になってしまいましたが、とても楽しかったです。

（M1 今井亮太）

【整理班】

今年で三回目の夏山参加となりました。出発前から台風に振り回され、参加が危ぶまれましたが、無事に登ることができて本当によかったです。昨年は準備班、今年は整理班として参加しましたが、相変わらず分からないことが多いと感じました。まだまだ未熟な部分が多いです。学生としての参加は今年で最後でしたが、とても充実した三日間を過ごすことができました。卒業してからも何らかの形で関わり続けたいと思います。ありがとうございました。

（M6 西山真由）

昨年度に引き続き整理班のメンバーとして参加させていただき、より一層診療活動に対する理解が深まりました。今年で幹部代の仕事を終え、またコロナ禍前の夏山を知る 6 年生が卒業するこのタイミングで、夏山経験のある上級生としての自覚を持ち、これからも診療活動を続けていけるようしっかりと下の世代のサポートをしていこうと思います。

（M3 冨田翔）

私にとっては初めての夏山でした。今回実際に診療所で活動する貴重な機会をいただき、準備に関わった多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。5 時間に及ぶ登山はとても大変でしたが、山頂で見た星空や日の出、穂高連峰の山々の景色はその苦労を忘れさせるものでした。結果的に診療は行いませんでしたが、整理班として閉所業務に関わることができたことは貴重な経験となりました。

（M3 弓桁千裕）

今年は自分にとって初めての夏山を経験しました。自分は整理班で、登るのが最後だったのでそれまでの班の山頂報告などを見て、期待と不安を持って当日を迎えました。山頂では患者さんが訪れなかったので、主な仕事は薬剤カウントと荷下げの準備、雲上セミナーでした。雲上セミナーは無事に終われて良かったです。先生方とお話ししたり、星空を見たりできて楽しかったです。来年はもっと自主的に仕事して、今年見られなかった景色を見たいと思いました。

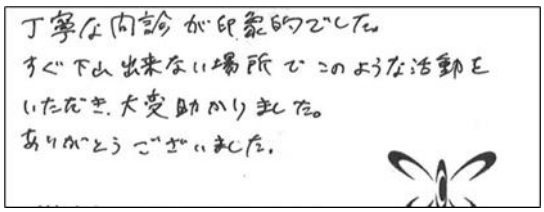
（M2 近藤尊彦）

2024.8.18 近藤（M2）が雲上セミナーにて発表中

# 患者さんからのお言葉

（はがきより一部抜粋）

カルテ番号:24-005　7 月 27 日


丁寧な問診が印象的でした。
すぐ下山出来ない場所でこのような活動を
いただき、大変助かりました。
ありがとうございました。

カルテ番号:24-007　7 月 27 日

年を取ってくると、頂上や登山中に体調が悪くなったらどうしようという不安が出てきますが、診療所があるととても心強く感じます。学生の方々もとても親切で、先生もとても気さくで安心できました。ありがとうございました。

カルテ番号:24-022　8 月 2 日

非常に親切丁寧にご対応いただき、本当にありがとうございました。実は名市大経済学部を卒業しており、思わぬ縁でとてもうれしかったです。今後も活動を応援しております。

カルテ番号:24-024　8 月 3 日

山へ行くときは体調を整え万全な備えをしているつもりですが、急な環境変化等で体の調子に不安を感じているときに診療班の利用ができたことで安心して下山できました。ありがとうございました。

カルテ番号:24-026　8 月 7 日

高山病は初めてでしたのでご指導いただけたおかげで安心できました。すぐに横にならずにしばらく座って安静にし、それからぐっすりと眠ることができましたので無事下山できたのだと思います。本当にありがとうございました。

カルテ番号:24-028　8 月 8 日

本当に心強くありがたかったです。もし、診察していただいていなかったら、とても不安で翌日の下山も安心できなかったと思います。山頂での活動大変だと思いますが、今後もよろしくお願いします。

カルテ番号:24-029　8 月 8 日

大きなケガではなかったですが、快く診療してくださりありがとうございました。自分では皮下異物除去ができなかったので、とても助かりました。

カルテ番号:24-033　8 月 11 日

早期の診察でしたが、親切丁寧にご対応いただき、とても感謝しております。処方していただいた痛み止めを服用し、何とか下山できました。ご担当の先生および学生の方々へ感謝をお伝えしたいです。

（2024 年 8 月撮影）

# メディア取材及び資料集

蝶ヶ岳ボランティア診療班
2024 年度学生代表　藤井祐宇（M3）

・中日新聞朝刊「夏山の医療　責任感と使命感」（06.04.24）

・読売新聞朝刊「夏山診療所 27 年目へ準備」（06.29.24）

・登山雑誌「PEAKS」2024 年 9 月号 No.167

・NHK BS にっぽん百名山「槍穂を望む縦走路 ～蝶ヶ岳から常念岳へ～」
・【BSP4K】・本放送：（木）19：30～ 11/14/24 ・再放送：（月）12:30～ 11/18/24 ・再放送：（木）8:00～ 11/21/24
・【BS】・本放送：（月）17:30～ 11/18/24 ・準定時枠：（水）9:25～0:00 の枠 11/20/24

・名古屋市立大学医学部同窓会瑞友会会報「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動～コロナ禍をのり越えて継続する力」学生代表　藤井祐宇（M3）2025 年 2 月 3 日第 153 号

・名古屋市立大学 SDGs News Letter Vol. 15, 2024.6

## 「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班」診療所開所に向けて準備中！

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所はボランティア活動を通じた社会貢献を目的として、平成10年に蝶ヶ岳山頂（2,677m）直下にある蝶ヶ岳ヒュッテ内に設置されました。この活動は今年で27年目になります。
本診療所は高地医学、遠隔地医療及び環境保全に関する研究・教育の場としての役割も備えており、毎年7月中旬～8月中旬の期間に学生、教員、卒業生などが診療活動に参加しています。

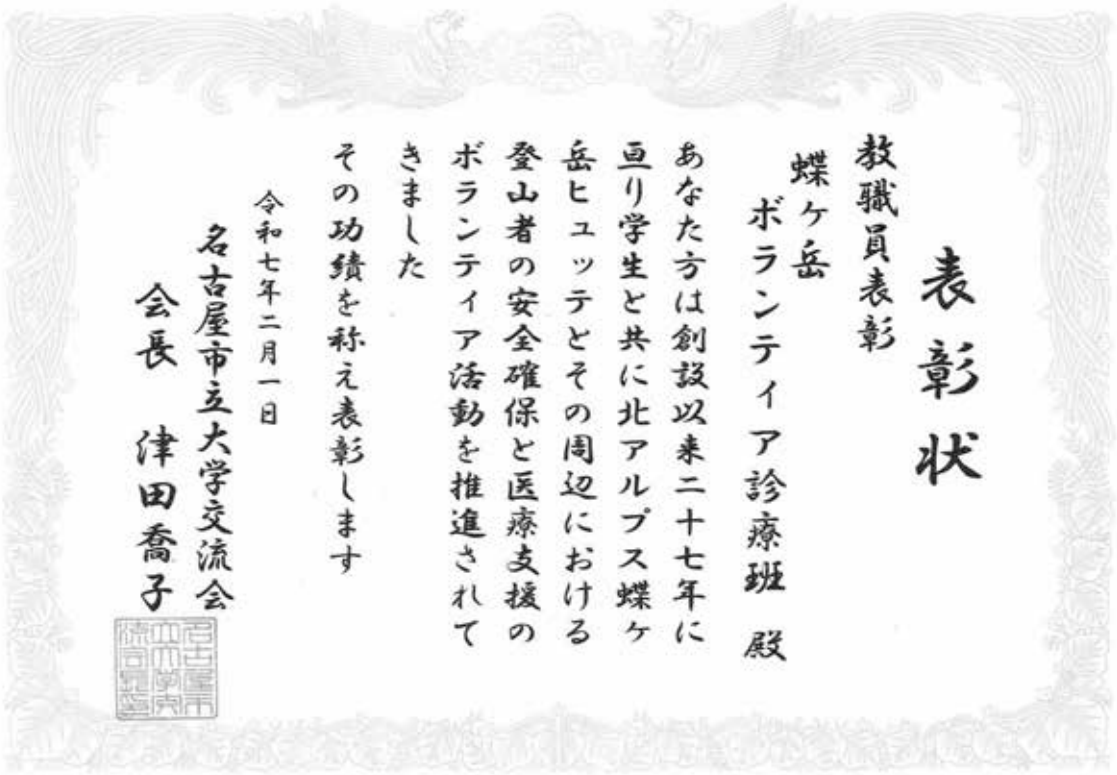
ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となったり、規模を縮小して実施していましたが、コロナ禍を乗り越え、学生と教員が協力して7月24日の診療所の開所に向けて準備を進めています。

診療所開所中は学生が交代で蝶ヶ岳ヒュッテに宿泊して、医師の診療活動のサポートをします。
さらに、学生は診療所内に24時間待機し、早朝や夜間でも患者さんを受けれる体制を整えています。
ほかにも、診療所の周知や体調不良者の早期発見を目的として登山者に声掛け活動（予防的介入活動）も実施しています。

毎日午後８時から行う
症例検討会

隔日の午後７時から行う
「雲上セミナー」

・名古屋市立大学交流会教職員表彰（第１回） 2025.2.1



表彰状

教職員表彰

蝶ケ岳
ボランティア診療班 殿

あなた方は創設以来二十七年に
亘り学生と共に北アルプス蝶ケ
岳ヒュッテとその周辺における
登山者の安全確保と医療支援の
ボランティア活動を推進されて
きました
その功績を称え表彰します

令和七年二月一日

名古屋市立大学交流会
会長 津田喬子

2025 年 2 月 1 日（土）に名古屋市立大学交流会（於名古屋マリオットアソシアホテル）にて蝶ヶ岳ボランティア診療班の歴代代表 4 名（太田伸生（1998～2005 年）、津田洋幸（2006～2008 年）、森山昭彦（2009～2012 年）、酒々井眞澄（2013 年～現在）（敬称略））が本学の知名度を高めた功績により表彰されました。

（1.20.2025 配信全体メイル参照）

## 【診療活動の取材に関する合意書】

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班代表
酒々井 眞澄 殿

1) 患者の診察の様子は診療情報・個人情報を多く含んでいるので、医師が患者へ説明して許可をとった上で取材します。

2) 医師が診療活動に支障を来すと判断したときは取材できないことを承諾します。

3) 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の活動を取材するに際しては、プライバシーに関る場合を考慮して取材対象となる人から許可を取った上で取材します。

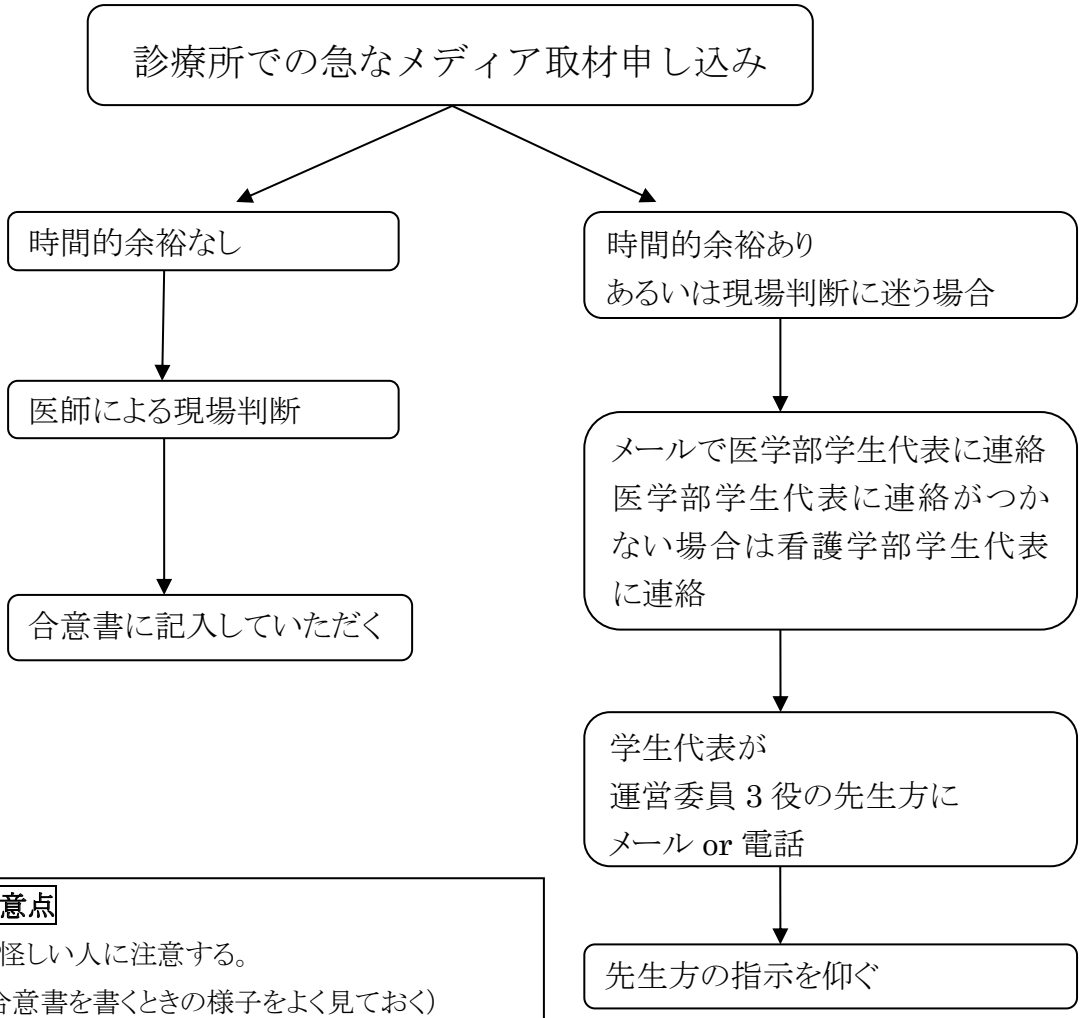
4) 取材の利用については当社に限るものとします。

5) 新型コロナウイルス感染症の予防対策を取った上で取材します。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（自署）　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（年月日）

社名
担当者
住所
電話番号
ファックス番号
携帯電話番号
E-mail アドレス

## 診療所での急なメディア取材申し込みへの対応フローチャート




**注意点**

・怪しい人に注意する。
（合意書を書くときの様子をよく見ておく）
・合意書の全項目が記入されていることを確認する。
・医師より患者様に取材の説明と同意を得る。
（医師の判断で学生が行うことも可とする）
・説明と同意の旨をカルテに記載する。
・合意書に記入をしていただけない場合は取材を丁寧にお断りする。

# 短時間での一時閉所チェックリスト

2024 年度　蝶ヶ岳ボランティア診療班

全般

- ☐ 様子を写真やビデオにおさめる

情報技術

- ☐ パソコンの電源を切る
- ☐ スマートフォンの電源を切る

診療所・宿泊部屋

- ☐ 診療所内部・宿泊部屋内の写真を撮る
- ☐ 宿泊部屋の火の始末をチェックする（カセットコンロ等）

ごみ

- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを確実に梱包する
- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを荷下げする

班長の責任で最終確認を行う

- ☐ 班長は**自分で**宿泊部屋の火の始末をチェックする（カセットコンロ等）
- ☐ 診療所のドアを施錠する
- ☐ ヒュッテの中村梢様、藤田剛央様、中村楓様のいずれかにかぎを返す
- ☐ 一時閉所作業完了の旨とお礼をヒュッテの中村梢様、現地スタッフ（中村楓様）に伝える
- ☐ 天候や人員などの状況を考え荷下げをするかの最終的な判断をする（荷下げする・荷下げしない）

# 短時間での完全閉所チェックリスト

2024 年度　蝶ヶ岳ボランティア診療班

薬剤

- ☐ カウントせずに A 材（輸液以外）とパルスオキシメーターを梱包する
- ☐ カウントせずに A 材（輸液以外）とパルスオキシメーターを荷下げする
- ☐ 作業風景をビデオか写真に撮る

情報技術

- ☐ パソコンの電源を切る
- ☐ スマートフォンの電源を切る

診療所・宿泊部屋

- ☐ 診療所内・宿泊部屋内の写真を撮る
- ☐ 寄付金、公衆電話用のコイン、領収書を回収する
- ☐ 寄付金、公衆電話用のコイン、領収書を荷下げする
- ☐ カルテを回収する
- ☐ カルテを荷下げする
- ☐ パソコン、スマートフォン、名札を回収する
- ☐ パソコン、スマートフォン、名札を荷下げする
- ☐ 先生からの借り物を回収する
- ☐ 先生からの借り物を荷下げする
- ☐ 診療所の看板 2 個、掲示物を外す
- ☐ 診療所の看板 2 個、掲示物を所定の場所に置く
- ☐ 閉所看板をドアの外側に掛ける
- ☐ ビニールシートで窓を覆う
- ☐ 診療所・宿泊部屋を掃除する
- ☐ 宿泊部屋の火の始末をチェックする（カセットコンロ等）
- ☐ 心電図計、ベッドにビニールシートを被せる
- ☐ AED の動作確認をする

ごみ

- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを確実に梱包する
- ☐ 一般ゴミ、医療ゴミ、黄色い箱のゴミを荷下げする

班長の責任で最終確認を行う

- □ 班長は**自分で**宿泊部屋の火の始末をチェックする（カセットコンロ等）
- □ 診療所のドアを施錠する
- □ ヒュッテの中村梢様、中村楓様のいずれかにかぎを返す
- □ 閉所作業完了の旨とお礼をヒュッテの中村梢様、現地スタッフ（中村楓様）に伝える
- □ 天候や人員などの状況を考え荷下げをするかの最終的な判断をする（荷下げする・荷下げしない）

（2024 年 8 月撮影）

# 診療班活動期間中のクマの目撃情報とその対策について

蝶ヶ岳ボランティア診療班
安東知里（M6）　井手上駿（M6）

2024 年 7 月下旬から 8 月上旬に蝶ヶ岳やヒュッテ周辺においてクマの目撃情報が複数あった。目撃情報の詳細とクマに遭遇した場合の対策を以下に記す。今後の診療活動の一助となれば幸いである。

【クマについて】
蝶ヶ岳周辺に棲息しているクマは主にツキノワグマである。ツキノワグマは体長100cm～150cm で体重は 130 ㎏に及ぶこともある。全身が黒色の体毛で覆われていて、胸部に三日月型の白い斑紋があることが特徴である（右写真）。ツキノワグマは基本的に植物食であるが、飢餓状態などの場合によっては肉食に移行することもあるとされる。ツキノワグマは基本的に昼行性であるがヒュッテ周辺では夜間の目撃情報もある。ツキノワグマの身体能力はスピードや筋力ともに人間を凌駕するものであり、一旦標的とされると生死に関わる。一般的に、クマは臆病であり人間の存在をアピールすれば近づかないとされているが、実際はそうでない場合があり見解が分かれる。

ツキノワグマ

【診療活動期間中の目撃情報の例】
〈事例①〉7 月 26 日（金）13 時頃
診療班員（学生）が下山後に三股駐車場からほりでーゆ～に車で向かう道中、道路脇にてクマを目撃した。クマは車を発見すると草むらに逃げて行った。
〈事例②〉7 月 31 日（水）17 時頃
ヒュッテの外のトイレとはなれの小屋の間から南東の方角に 100m ほどのところにクマを目撃した。ひらけたところを徘徊していたが、数分後に茂みに隠れて見えなくなった。
〈事例③〉8 月 4 日（日）10 時 45 分頃
診療班員（学生）が蝶槍から蝶ヶ岳ヒュッテに戻る道中、安曇野（左手）側にクマが出現したと他の登山者から情報提供があった。その後、診療班員（学生）がクマを目撃した。その場にいた登山者のクマ鈴と後から来た登山者の笛による対処によってクマが離れて目視できなくなったのを確認し、蝶ヶ岳ヒュッテへの登山を再開した。この間約 10 分であった。

その他、蝶ヶ岳ヒュッテ HP でもクマ出没情報が示されている。（2019.5、2023.7）

『YAMAP』『ヤマレコ』などのアプリケーションでは個人登山者の報告としてクマの目撃情報が共有されていた。（※2023、2024 年の情報確認済み）

【対策】

〈事前対策と反省〉

・クマに遭遇しない行動を心掛ける。

・学生からクマの目撃情報を収集し、班ミーティング等で関係班員に周知した。

・クマの習性や行動時間を調べ、明け方や夕方等、クマの活動が活発になる時間帯の行動を避けた。

・クマ対策グッズ（クマ鈴やクマ撃退スプレー等）を携行し単独行動を避けた。

・今回は情報が得られた後の対策であったので診療班員全員への周知が十分ではなかった。2025 年は診療班全体に素早く周知するシステムを構築する必要がある。

・クマ遭遇予防と遭遇時の対応について各自備えておく。

〈クマ遭遇時の対応〉

・クマを目撃したら、クマに気づかれる前に静かにその場から離れる。

・背中を見せて逃げると、クマが標的とみなす可能性があるため、クマの動向を注視しながらそっと後退する。なお、“死んだふり”は無効である。

・クマ撃退スプレーの使用も効果的である。事前に使用法を十分に確認しておく。

〈クマ対策グッズ〉

診療班では、クマ鈴やクマ撃退スプレーを新規に購入した。クマ鈴は所持していない学生に貸し出し、行動中はクマ撃退スプレーを携行するようにした。

（事例①7 月 26 日 13 時頃に撮影されたクマ）

# いわゆるコロナ禍を乗り越えて診療班活動を継続するための方策

蝶ヶ岳ボランティア診療班
2024 年度学生代表　藤井祐宇（M3）

私たちの最優先する事項は安全な活動です。従って、班員の健康管理と診療活動における感染対策もまた重要な課題です。私たちは 2023 年 4 月に全 75 項目からなるガイドラインを策定し、これを遵守することとしています。ガイドライン策定にあたってはその効力が十分に発揮されるよう、他の団体が発行しているものを参考にしながら私たちの活動の場面を想定しています。2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 2 類相当から 5 類へ変更されたことに伴って適宜アップデートし、「名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班の学生参加に関するガイドライン　ver.1.3」（2024 年バージョン）としました。

このガイドラインは以下の3つを目的として 2024 年バージョンに策定されました。

① 全ての班員が名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班としての活動を安全に行うこと
② 本活動が新型コロナウイルス感染症の拡大を誘発させないこと
③ 医療に関わる学生として本活動での模範となる感染予防対策を啓発すること

ガイドラインは、例えば、参加基準、中止基準、班員の感染対策、診療活動における感染対策、活動中にコロナ感染の疑いがある場合の対応などについて記載されています。

（補足）

2023 年の発熱受診者の症例への対応に基づき、「学生向け診療活動における感染対策」をアップデートしています。（詳細については 2023 年報告書p45、p65 を参照）①学生、患者ともに不織布マスクを着用すること、②学生は手袋を着用すること、③初回、非接触型の体温計で体温を測定すること、④発熱していた場合は、学生はその診療に関わらず医師に引き継ぐことが明示されています。加えて、風邪様症状の確認に際しては体調確認票を作成し、問診の際に活用することとしています。新型コロナウイルス感染症には適切な対応が求められます。診療班活動に参加する学生はこの点を理解しなければなりません。

# コロナ禍からのヒュッテの変化、今後求められる蝶ヶ岳診療所

蝶ヶ岳ボランティア診療班　運営委員長　　坪井謙

1）活動再開に向けての準備

コロナ禍により 2020 年から 2 年間夏期山岳診療所を開所できませんでした。2022 年に入り感染者数の減少とともに職員の制限が緩和され、活動再開の準備を進めました。運営委員会は WEB 会議で行ってきました。学生の引き継ぎに明文化されたマニュアルがなく活動再開に苦労しました。2024 年度は開所期間が増えた分、班員全体に意志が伝わらないなど、運営の再構築が必要でした。顔を突き合わすことに重きをおき、2024 年は部室と WEB のハイブリッドでの会議にしました。

2）コロナ対策

学生活動と診療活動に分けてコロナ対策のガイドラインを作りました。2022 年 7 月 6 日に夏期合宿可の通知があり、学生活動のガイドラインを適宜修正しました。診療に関する対策は名市大救急部の診療班 OB 坪内希親先生のご指導のもと取りまとめました。2023 年 5 月 8 日に「新型インフルエンザ等感染症（2 類相当）」から「5 類」へと変更され、ガイドラインを改訂しました。2024 年度も実情に合わせ内容を緩和し更新しました。

3）蝶ヶ岳ヒュッテの変化

2019 年 12 月 15 日に先代オーナー神谷圭子さんがご逝去され、長女の中村梢さんが引き継ぎました。新体制になった直後にコロナ禍となり、運営体制が大きく変わりました。コロナ禍前から在籍する山小屋スタッフは 3 名のみで、酒井さんは大滝小屋、鈴木さんは事務所勤務になり、現地スタッフはほぼ入れ替わりました。2 年間は夏山診療所がなくても大きな問題はなく過ぎました。登山者数の減少や、体調がいい人しか登らなかったためかもしれません。現地スタッフに診療所の必要性を理解してもらうよう、診療班の成り立ちから 2019 年までの活動を現地に報告しました。

新型コロナ感染対策のため、2022 年までは登山客・ヒュッテ従業員ともに、部屋には間仕切りを入れていました。2020 年からヒュッテは完全予約制となり宿泊者数に限りができました。客も診療班員も詰め込むだけ詰め込むことができなくなりました。2022 年から WEB 予約が中心となり、電話予約は事務所で対応するようになりました。改築などを経てヒュッテ宿泊者数はやや増加しましたが限りがあるままです。一方で個人のテント宿泊者が増えました。

4）診療所の変化

2020~2022 年の間、診療所はテント泊の方の受付窓口として使用しました。2022 年は以前の食堂隣の更衣室を改装し診療所を移転しました。旧診療所は発熱者が出た時の部屋とました。しかし、隔離者の導線の問題などで、2023 年以降は以前の場所にもどし、改装した元更衣室を発熱者の待機場所としました。

2022 年 7 月 16 日開所時の3連休は 3 日間で患者は 2 人のみでした。長野県に医療警報が発出されたため 7 月 21 日に夏山診療活動を中止しました。学生は現地参加できず、経験・引き継ぎに問題を抱えたまま次年度に持ち越しました。発熱者、ヒュッテ従業員の体調不良者の電話対応をしました。密を避けるため雲上セミナーや症例検討会は中断しました。2023 年は土日・お盆のみ開所しました。診療班員が不在時に診療所を訪ねる方も増えたと聞いており、ヘリ搬送事例もあったことから診療所の必要性は再び増えてきました。2024 年は平日も含めて続けて開所しました。患者数はコロナ前と比べると半分から 1/3 程度で、需要からも参加者人数は制限したままとし、平日の医師不在期間を容認しました。雲上セミナー、症例検討会ともに再開しました。
活動再開後 3 年間、開所期間中は発熱患者による大きなトラブルはありませんでした。

5)宿泊について
開所から 20 年間、先代オーナー中村圭子さんのご厚意により 1 人 1 泊 1,000 円で賄っていただきました。しかし、2022 年からは運送費・物価高騰や世界情勢、客足が激減したヒュッテの運営状況などにより滞在費については毎年検討することにしました。2022 年の食費は、朝食 1,000 円、昼夕食 1,500 円、食材の補助がある自炊は 500 円と決めました。ただし、かつての冬季小屋自炊スペースは物置になり使用できなくなり、登山客と同様に外で作るか、入口の風除室などでの自炊になりました。滞在費については客室を使用することもあり、素泊まり費用の半額とし、テント泊については無料としました。2023 年度は別邸を使用し、一食 1,000 円、宿泊費 5,000 円と設定しました。学生については診療班運営費から後日会計とし、診療スタッフなどについては実費を負担し、現地清算としました。当初客室利用の値段であったこともあり、2024 年度は診療班員一人当たり、一食 1,000 円、宿泊費 2,000 円としました。診療所を持つ他の山小屋も経営が苦しい中、どこまで診療所に山小屋が援助するかが問題になっています。また、学生の参加人数を増やすため、テント宿泊を検討しましたが、準備不足で実現していません。

6)診療班の今後
2020 年からヒュッテ宿泊者の減少により、蝶ヶ岳診療所を訪れる患者は減りました。診療所に必要とされる班員の数、密を避けること、費用の問題から診療所に滞在する人数は限られます。2023 年はコロナ対策が緩和され登山客が増え、診療所の需要は増えてきました。途切れていた松本市・長野県からの補助も減額ながらも再び得られるようになりました。2024 年度は開所期間が増え滞在費も増えました。減少した寄付金や減額された補助金のみでは、継続的な運営は困難と判断して、現地スタッフには参加費をいただきました。2024 年の実績から松本市・長野市からの補助金、医学会からの支援金が再開され、また寄付金も多く集まるようになり来年度からは参加費は不要となる見込みです。

患者の絶対数はコロナ禍前と比べて減ったものの重症患者は 5 年おきほどに一定数いますので、診療所の需要はあります。ただし、求められる規模に関してはその都度検討していかなければいけません。引き続き皆様のご理解とご協力が必要になりますので、よろしくお願いします。

## 2024 年度　寄付者御芳名

誠にありがとうございました。

青木康博　明石恵子　薊隆文　足尾陽　安藤有希乃　石田恵章　石田宗紀　井上右喬　今泉冴恵
井村尚斗　岩城昴佑　岩瀬正之　梅田翔梧　梅村裕美　太田伸生　加藤彰寿　加藤悠太　狩谷哲芳
茅野三葉　神田伸一　北野暁也　鬼頭佑輔　神代崇一郎　齋藤裕太郎　榊原嘉彦　佐々木謙
佐藤裕也　柴田結佳　下方征　社本穏俊　杉山智美　酒々井眞澄　鈴木智子　瀬古健登　竹内了哉
たさきももこ　田中秀和　谷梨沙　津田洋幸　坪内希親　冨田久美子　中島貴裕　中島知子　中島晴菜
中島亮　永野有紗　中村梢　成田朋子　成瀬兼人　羽柴文貴　長谷部知香　畑中景　服部滉平
服部友紀　服部麗　早川純午　日置啓介　藤原万滉　船坂珠里　眞鍋良彦　南木那津雄　向井彩
村山敦彦　森山昭彦　安田美祐　吉田嵩　わたいゆうみ　渡邉由佳
匿名ご希望の方 2 名

（敬称略五十音順）

2023年にご寄付いただいた方々のお名前について数名の記載漏れがございました。ご迷惑をおかけしてしまい誠に申し訳ございませんでした。今後このようなことがないように努めてまいります。

以下の団体・個人からのご協力に心より感謝申し上げます。

相澤病院
安曇野赤十字病院
株式会社ヤマテン
蝶ヶ岳ヒュッテ
徳澤園
徳沢ロッヂ
長野県警察本部航空隊
長野県
長野県松本市
名古屋市立大学
名古屋市立大学医学会
名古屋市立大学医学部同窓会瑞友会
名古屋市立大学交流会
日本大学医学部徳沢診療所

（敬称略五十音順）

## 2024 年度報告書係

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 医学部 6 年 | 笠井翔太 | 医学部 6 年 | 武市和也 | 医学部 5 年 | 中川楓美恵 |
| 医学部 4 年 | 若杉大路 | 医学部 3 年 | 児玉奈緒 | 医学部 3 年 | 弓桁千裕 |
| 医学部 2 年 | 大岩篤史 | 医学部 2 年 | 梅原瑞希 | | |

連絡先を変更された班員は下記まで連絡をお願い致します。

chogatake-staff@umin.ac.jp

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班にご寄付いただき誠にありがとうございました。
皆様からのご寄付は、今後の活動費に充てさせていただければと考えています。
これからも皆様のご支援にお応えできますよう活動を続けていきます。引き続きのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

2025 年 3 月
名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

寄付金受付窓口
郵便振込　口座番号　00830-3-59137
　　加入者名　名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所 2024 年度報告書
2025 年 3 月　第 1 刷発行
発行者　酒々井眞澄
発行所　名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班
〒467-8601　名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1 番地
電話：(052)853-8993
URL：http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyogatake.htm
印刷　名古屋市立大学生協川澄店
Copyright(c)2024 by Mt.Chogatake Volunteers' Clinic
(200 部)